

中学生の勤労性に関する諸要因間の関係について

家庭管理教室 毛利 亮太郎*
小林 和子

1. はじめに

小学生ならびに中・高校生の勤労性に関するアンケート調査により、学年や学校段階が進むにつれ、却って勤労性が低下すること、児童生徒の勤労性は親の職業や住まいの環境によっても影響され、農家の子、農村の子は勤労性が高く、商家の子や町の子はそれが低い傾向があること等が判明した^{1,2)}。今回は中学生を対象とし、勤労性に関わると考えられる15の要因間の関係について数値を求め、何が勤労性を規定するかをさらに細かく分析し、勤労性に関わる要因について知見を得、勤労性の教育に役立てようとした。

2. 研究方法

勤労性に関わる要因としてアンケートに取り上げた事項は次の通りである。

Q 1 : 父の職業, Q 2 : 母の職業, Q 3 : 住居の環境, Q 4 : 所有栽培施設数, Q 5 : 家で使った道具数, Q 6 : 学校で使った道具数, Q 7 : 父の仕事振りを見た程度, Q 8 : 父母と一緒に仕事した程度, Q 9 : 学校掃除の状況, Q 10 : 自室の掃除状況, Q 11 : 家での決った仕事の有無, Q 12 : 仕事を言いつかった時の態度, Q 13 : 対勉強仕事観, Q 14 : 仕事価値観, Q 15 : いじめの状況。

以上の要因を次の関係で分析することにした。

Q 1 : Q 2 ~ Q 15, Q 2 : Q 1 ~ Q 15, Q 3 : Q 1 ~ Q 15, Q 4 : Q 1 ~ Q 15, Q 5 : Q 1 ~ Q 15, Q 6 : Q 1 ~ Q 15, Q 7 : Q 1 ~ Q 15, Q 8 : Q 1 ~ Q 15, Q 9 : Q 1 ~ Q 15, Q 10 : Q 1 ~ Q 15, Q 11 : Q 1 ~ Q 15, Q 12 : Q 1 ~ Q 15, Q 13 : Q 1 ~ Q 15, Q 14 : Q 1 ~ Q 15

なお、調査は昭和61年12月、鳥取県中部の比較的山間部のA中学校(生徒数268名)と都市部のB中学校(生徒数760名)に調査用紙(別紙)を送り、合計1028枚の回答を得、鳥取大学情報処理センターの大型コンピューター(HITACHI-H-280D)により、ソフトSPSSXを用いて分析した。

3. 分析結果と考察

3-1 父親の職業と他要因との関係

(1) 母親の職業との関係

表1によると、父が農業の場合、母も農業に従事する者は70%で、勤め人12%、自家商業10%で

※ 鳥取大学名誉教授(前美作女子大学教授)

表1, 父親の職業と母親の職業との関係

父	母	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
農 業(112)		69.6	11.6	9.8	7.1	1.8
勤 め 人(573)		4.9	61.3	17.6	14.5	1.7
自 家 商 業(121)		0.8	10.7	38.8	47.1	2.5
そ の 他(178)		2.2	22.5	21.9	51.7	1.7
不 記(44)		6.8	43.2	9.1	18.2	22.7

表2, 父親の職業と自宅周辺の環境との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
農 業	4.5	84.8	10.7	0
勤 め 人	33.0	40.8	23.7	2.4
自 家 商 業	47.9	24.8	22.3	5.0
そ の 他	33.1	38.2	24.7	3.9
不 記	29.5	34.1	20.5	15.9

表3, 父親の職業と家庭にある栽培施設数との関係

	0	1	2	3	4	不 記
農 業	0.9	4.5	5.4	18.8	70.5	0
勤 め 人	3.3	15.2	33.0	20.4	27.9	0.2
自 家 商 業	6.6	29.8	33.1	19.8	10.7	0
そ の 他	3.4	26.4	29.2	16.3	23.6	1.1
不 記	4.5	15.9	25.0	25.0	15.9	13.6

表4, 父親の職業と家庭で使った道具数との関係

	農 業	勤め人	自家商業	そ の 他	不 記
0	0	0.2	2.5	1.7	0
1	0	0.5	2.5	1.1	2.3
2	0	1.0	1.7	1.1	0
3	0.9	1.7	3.3	3.9	6.8
4	4.5	3.8	1.7	2.8	0
5	2.7	4.2	10.7	6.2	9.1
6	6.3	7.7	6.6	9.0	13.6
7	5.4	10.8	15.7	14.6	9.1
8	5.4	14.1	8.3	7.3	11.4
9	8.0	11.2	9.1	16.3	13.6
10	9.8	13.3	17.4	8.4	9.1
11	16.1	11.9	6.6	14.6	9.1
12	18.8	8.9	9.1	5.1	6.8
13	3.4	6.6	4.1	5.1	4.5
14	8.9	3.8	0.8	2.8	4.5
不 記	0	0.2	0	0	0

表5, 父親の職業と学校で使った道具数との関係

	農 業	勤め人	自家商業	そ の 他	不 記
0	0	0.2	0.8	1.1	0
1	0.9	1.7	3.3	3.9	4.5
2	9.9	9.8	11.6	12.9	9.1
3	13.5	14.8	11.6	16.3	11.4
4	11.7	11.7	11.6	14.6	11.4
5	15.3	9.6	9.9	9.6	11.4
6	11.7	7.7	7.4	7.3	13.6
7	8.1	8.2	7.4	9.0	11.4
8	2.7	8.7	9.1	4.5	4.5
9	2.7	5.8	5.8	9.0	9.1
10	8.1	9.1	8.3	5.1	2.3
11	7.2	5.6	5.8	3.9	4.5
12	7.2	5.4	5.8	2.2	4.5
13	0	1.2	0.8	0	0
14	0	0.2	0.8	0	0
不 記	0.9	0.3	0	0.6	2.3

表6, 父親の職業と父親の仕事振りを見る程度との関係

	よく見る	時々見る	全く見ない	不 記
農 業	42.0	52.7	4.5	0.9
勤 め 人	15.7	57.0	26.6	0.7
自 家 商 業	62.0	34.7	2.5	0.8
そ の 他	16.3	51.1	29.8	2.8
不 記	0	6.8	18.2	75.0

ある。父が勤め人の場合には母も勤めをする者61%で、自家商業は18%である。これに対し、父が自家商業の場合、母も自家商業という者は39%であるが、勤め人11%、農業1%であるから、その他の47%は家事か商業類似の仕事であろう。従って、親の職業が子供の勤労性に関わるならば、農業と商業は父母の相乗効果が多く、勤め人の場合はそれより低いことが考えられる。

(2) 自宅周辺の環境との関係 表2によると、父が農業の場合は85%の者が農村に住み、自家商業の場合は48%の者が町に住むが、その住居は農村にも近郊にも及んでいる。勤め人は農村部に多いが町にも近郊にもかなり多い。

(3) 家庭にある栽培施設数との関係 表3によると、農家には田畑等の施設の小数の場合が少なく、多数の場合が多い。これに対し、商家では小数の場合が多く、多数の場合が少ない、勤め人はその中間にある。しかし、勤め人や商家でもその皆無の者は3~7%で、2つ以上はそれぞれ

81, 60%であり, 考え方によっては栽培的作業を経験させることは可能であることを示している。

(4) 家庭で使った道具数との関係 表4により, 道具数8までの推移をみると, 自宅で道具を使うことの多いのは父が自家商業の場合で, 次いで勤め人である。また, 道具数9以上の場合をみると, 使用道具数の多いのは農家の子で, 次いで勤め人, 自家商業と少なくなっている。即ち, 中学生は父の仕事と何らかの形で関わっているであろうことが想像される。

(5) 学校で使った道具数との関係 表2により, およそ農家は農村に, 商家は町にといえるのであることから, 表5によって, 農村の学校と町の学校によって道具の使用数はどう変わるかを見ることができる。即ち, 町の学校では0~2種の場合が幾らか多いが, 概括的には相違は認めにくい。学校では村でも町でも類似した経験を課しているとみられる。

(6) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表6によると, 父の仕事振りをよく見るのは自家商業, 次いで農家の子で, 勤め人の子は最も少ない。

(7) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表7によると, 父母と一緒に仕事した経験も(6)と同様な傾向にある。仕事の性格によるであろう。

(8) 学校掃除の態度との関係 表8によると, 学校の掃除を進んでする者の多いのは農家の子(32%)で, 次いで勤め人の子(23%)であるが, 商家の子は進んでする者が18%と少ない上に, 嫌いでしない者が4%と多く, 望ましくない反応が目立つ。

(9) 勉強部屋の掃除との関係 表9によると, 毎日自分で掃除する者の割合は自家商業18%, 農業17%, 勤め人15%の順であるが, 家人によると全くしないの合計は自家商業7%, 勤め人7%, 農業3%で, 両者を勘案してみると, 僅差であるが農家の子, 商家の子, 勤め人の子の順に望ましい反応を示しているとみられる。

(10) 家での仕事との関係 表10によると, 農家の子は家での仕事の決っていない者が78%と多く, 決っている者は21%と少ないが, 勤め人と商家の子は農家の子に比べ, 決っていない者が少なく, 決っている者が多い。

表7, 父親の職業と父母と一緒に仕事した程度との関係

		程度との関係			
		よくある	時々ある	全くない	不記
農	業	33.9	61.6	3.6	0.9
勤	め人	16.6	61.8	20.8	0.9
自	家商業	36.4	54.5	8.3	0.8
そ	の他	12.9	56.2	29.8	1.1
不	記	15.9	47.7	18.2	18.2

表8, 父親の職業と学校掃除の態度との関係

		進んで	仕方なく	時々	嫌いで	多解答	不記
		する	くする	さぼる	しない		
農	業	32.1	37.5	26.8	1.8	0.9	0.9
勤	め人	23.4	42.8	31.6	1.9	0.2	0.2
自	家商業	18.2	45.5	31.4	4.1	0	0.8
そ	の他	17.4	42.7	37.1	2.2	0	0.6
不	記	11.4	36.4	31.8	2.3	0	18.2

表9, 父親の職業と勉強部屋の掃除との関係

		毎日	たまに	家人の	家人に	全く	多解答	不記
		自分で	自分で	手伝で	より	しない		
農	業	17.0	64.3	15.2	0.9	1.8	0	0.9
勤	め人	14.8	61.8	16.2	4.4	2.1	0.2	0.5
自	家商業	18.2	58.7	15.7	5.8	0.8	0	0.8
そ	の他	19.1	57.3	11.8	9.0	2.2	0	0.6
不	記	13.6	50.0	9.1	2.3	6.8	0	18.2

表10, 父親の職業と家での仕事との関係

		決って	決って	不記
		いない	いる	
農	業	77.7	20.5	1.8
勤	め人	63.9	36.0	0.2
自	家商業	63.6	35.5	0.8
そ	の他	64.0	34.8	1.2
不	記	47.7	40.9	11.4

表11, 父親の職業と仕事を言いつかった時の態度との関係

	嫌いで しない	不足を言 っている	仕方な くする	気持よ くする	多解答	不記
農 業	0.9	21.4	63.4	11.6	1.8	0.9
勤 め 人	0.7	21.6	58.8	16.6	0.9	1.4
自 家 商 業	0.8	19.0	61.2	16.5	1.7	0.8
そ の 他	3.9	25.3	52.8	16.3	0.6	1.1
不 記	0	15.9	54.5	11.4	2.3	15.9

表12, 父親の職業と対勉強仕事観との関係

	勉強が 大切	仕事 が大切	同 等	不 記
農 業	19.6	9.8	69.6	0.9
勤 め 人	18.0	11.2	69.8	1.0
自 家 商 業	17.4	18.2	63.6	0.8
そ の 他	18.0	12.9	68.5	0.6
不 記	15.9	11.4	56.8	15.9

表13, 父親の職業と仕事価値観との関係

	良 い ことだ	大した ことなし	無駄な ことだ	不 記
農 業	84.8	11.6	1.8	1.8
勤 め 人	86.7	11.5	0.7	1.0
自 家 商 業	83.5	14.0	0.8	1.7
そ の 他	86.5	11.2	1.1	1.1
不 記	72.7	9.1	0	18.2

表14, 父親の職業といじめとの関係

	い じ め た	い じ め ら れ た	そん な ことなし	両 方 あ り	不 記	多解答
農 業	7.1	8.0	65.2	16.1	2.7	0.9
勤 め 人	14.8	8.4	66.5	8.9	1.2	0.2
自 家 商 業	22.3	5.8	58.7	10.7	1.7	0.8
そ の 他	20.8	9.0	61.8	6.7	1.1	0.6
不 記	18.2	6.8	54.5	2.3	18.2	0

(1) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表11により、親の職業間の差で指摘できるのは農家の子が他の職業の子より気持よくする者が5%少ないことである。農家の子は一般に勤労性が高いとみられるが¹²⁾、言いつかる仕事の内容や頻度にもよるであろうが、この数値はその態度が未だ完成されたものでないことを示している。

(2) 対勉強仕事観との関係 表12により、父の職業が農業の場合と自家商業の場合を比較すると、農家の子には仕事が大切とする者が少なく、勉強が大切とする者が多い。これに反し、商家の子は勉強が大切とする者が少なく、仕事が大切とする者が18%と多い。恐らくその職業の収益の多少等が生徒の意識に反映していることによるであろう。勤め人の子はその中間に在る。即ち、中学生なりに進路の予想を立て、将来に向かって努力の方向を決めようとしているものと思われ、農家の子どもの離農意識をそこに見ることができる。

(3) 仕事価値観との関係 表13では、各職業の子の仕事価値観に大きな差は認められないが、強いていえば自家商業の子に低く、勤め人の子に高いことである。農家の子はその中間の値を示している。収益の差に関係があるかも知れない。

(4) いじめとの関係 表14によると、商家の子はいじめた経験が多く、いじめられることは少ない。これに反し、農家の子はいじめた経験が少ない。動植物を相手にする農業が受容的な性格をもち、物と人間を相手にする商業が自己主張的な性格をもつことが、間接に子どもに反映しているともみることができ、興味を覚える。勤め人の子はその中間に位置している。

3-2 母親の職業と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表15によると、母親の立場から父親の職業をみても農業は夫婦同業が69%と多く、勤め人の場合は夫婦同業が81%と最多であって、父親からみた場合より20%多い。しかし、自家商業にあっては夫は勤めに出る場合が50%と多く、夫婦同業は16%減って23%である。

(2) 自宅周辺の環境との関係 表16によると、表2でみたと同様に、農業は農村にであるが、父親の場合より4%多い。勤め人も農村が多いがこの場合も父親の場合より町的环境が減って農村

表15, 母親の職業と父親の職業との関係

母	父				
	農 業	勤め人	自 家 商 業	その他	不 記
農 業(114)	68.4	24.6	0.9	3.5	2.6
勤 め 人(436)	3.0	80.5	3.0	9.2	4.4
自 家 商 業(202)	5.4	50.0	23.3	19.3	2.0
そ の 他(248)	3.2	33.5	23.0	37.1	3.2
不 記(28)	7.1	35.7	10.7	10.7	35.7

表16, 母親の職業と自宅周辺の環境との関係

	町 的	農村的	近効的	不 記
	農 業	1.8	88.6	9.6
勤 め 人	28.7	45.2	23.2	3.0
自 家 商 業	45.5	25.2	26.7	2.5
そ の 他	39.9	32.7	24.2	3.2
不 記	21.4	42.9	7.1	28.6

表17, 母親の職業と家庭にある栽培施設数との関係

	0	1	2	3	4	不 記
	農 業	0.9	1.8	3.5	16.7	77.2
勤 め 人	3.2	14.0	30.5	21.1	31.2	0
自 家 商 業	5.4	26.7	34.7	19.3	13.9	0
そ の 他	2.8	25.0	33.9	19.8	18.1	0.4
不 記	10.7	10.7	25.0	10.7	14.3	28.6

表18, 母親の職業と家庭で使った道具数との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
	0	0	0.2	1.0	1.6
1	0	0.7	1.5	1.2	0
2	0	0.7	2.0	1.2	0
3	0.9	1.8	2.5	4.0	3.6
4	2.6	3.0	4.5	3.6	0
5	0.9	4.8	5.4	7.7	10.7
6	6.1	6.0	10.9	10.5	0
7	3.5	11.7	11.9	13.3	17.9
8	5.3	12.4	10.9	12.1	10.7
9	7.0	11.0	15.3	11.3	14.3
10	7.9	13.5	12.9	11.7	14.3
11	15.8	14.7	7.4	9.3	14.3
12	17.8	8.9	7.9	7.3	7.1
13	21.1	6.4	3.0	4.0	3.6
14	11.4	4.1	3.0	1.2	0
不 記	0	0	0	0	3.6

表19, 母親の職業と学校で使った道具数との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
	0	0	0.2	0.5	0.8
1	0.9	1.1	3.0	3.6	10.7
2	6.2	8.3	10.4	16.5	10.7
3	12.4	14.4	15.3	14.5	14.3
4	10.6	11.2	13.9	13.7	7.1
5	14.2	10.8	9.4	7.7	17.9
6	10.6	8.9	7.9	6.5	7.1
7	8.0	7.6	10.9	8.9	0
8	6.2	7.6	5.9	8.9	0
9	4.4	7.1	6.9	4.8	3.6
10	9.7	8.3	6.9	6.9	10.7
11	9.7	6.2	4.5	2.4	10.7
12	6.2	6.2	4.5	3.2	3.6
13	0	1.4	0	0.8	0
14	0	0.2	0	0.4	0
不 記	0.9	0.5	0	0.4	3.6

表20, 母親の職業と父親の仕事振りを見る程度との関係

	よく見る	時々見る	全く見ない	不 記
	農 業	44.2	49.6	4.4
勤 め 人	16.1	52.5	26.4	5.0
自 家 商 業	28.7	51.0	18.8	1.5
そ の 他	24.6	49.2	22.2	4.0
不 記	7.1	39.3	28.6	25.0

的が4%増えている。母親の自家商業の環境は父親の場合とほぼ同じ46%が町的である。

(3) 家庭にある栽培施設数との関係 表17は表3とほぼ同じ数値で栽培施設は農業に多く、勤め人が続き、自家商業に少ない。

(4) 家庭で使った道具数との関係 表18によると、表3と同様に農家の子が多く使い、次いで勤め人の子で、商家の子が最少である。

(5) 学校で使った道具数との関係 表19は表5と同様に、母親からみた場合でも学校では村でも町でも類似した経験を課しているとみられる。

(6) 父親の仕事振りを見る程度との関係 父親の場合(表6)は商家の子が最も多く見ていたが、表20によると、母親が商業であれば、よく見る者は半減して29%になる。父親が勤めに出るこ

とが多い(表15)からであろう。母親が農業しておれば、父親が農業している場合よりやや多い44%が見るようである。母親が勤めに出ると父親も多く勤めに出る(表15)が、父親の仕事振りを見る程度は父親が勤めに出る場合と同じように少ない。

(7) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表21によると、母親が農業であれば、よくあるが最多の41%、全くないが最少の1%、次が自家商業の18%と16%で、勤め人の場合は、よくあるが17%、全くないが22%である。即ち、農家の子は親と一緒によく働き、勤め人の子はその機会が少なく、自家商業の子はその中間である。これを父親の職業の場合(表7)に比べてみると、母親が農業の場合には、よくあるが7%多く、全くないが3%少ない。勤め人の場合には父と母の職業による差はなく、商業の場合には、母が商業している方が、よくあるが18%も少なく、全くないが8%多い。即ち、母が農業している場合にはよく手伝い、商業していると手伝うことが少ないことになる。農業後継者作りに母親が重要な役割を果たしているとの考え方には意味がある。

(8) 学校掃除の態度との関係 表22からみて、母親が農業していると、進んでするが33%、さぼったり、掃除しない者が29%、勤め人の場合には進んでする者が23%、さぼったり、掃除しない者が32%、自家商業の場合にはそれらが20%と39%である。即ち、母親の職業と学校掃除の態度には明瞭な差があって、農家の子が最も良く、商家の子はよくない。勤め人の子はその中間である。これを父親の場合に比べてみると、農業の場合は進んでするとさぼったり、掃除しないが父と母でそれぞれ32:29と33:23%であり、勤め人の場合は23:34と23:32%であり、商業の場合は18:36と20:39%で、父と母との差は認められない。即ち、父と母の何れであっても、親が農業であればよく掃除し、商業であれば掃除振りはよくない、勤め人の子はその中間である、という傾向がみられることになる。

(9) 勉強部屋の掃除との関係 表23によると、毎日自分で掃除する者の最も多いのは農家の子で19%、次に勤め人の子の17%、自家商業の子は15%であり、逆に自室の掃除に関わらない者の多いのは商家の子で12%、次に勤め人の子の5%、農家の子は3%である。従って、母親が農業している子は自室の掃除をよくし、商家の子は働かない傾向にあって、勤め人の子はその中間に位置しているといえる。

表21, 母親の職業と父母と一緒に仕事した程度との関係

	よくある	時々ある	全くない	不記
農業	41.2	57.9	0.9	0
勤め人	16.7	60.3	21.8	1.1
自家商業	18.3	65.3	16.3	0
その他	19.0	56.5	22.6	2.0
不記	10.7	32.1	32.1	25.0

表22, 母親の職業と学校掃除の態度との関係

	進んでする	仕方なくする	時々さぼる	嫌いでしない	多解答	不記
農業	33.3	37.7	28.1	0.9	0	0
勤め人	22.9	44.3	30.7	1.4	0.2	0.5
自家商業	20.3	40.6	36.6	2.0	0.5	0
その他	19.0	41.9	34.3	4.0	0	0.8
不記	7.1	42.9	14.3	7.1	0	28.6

表23, 母親の職業と勉強部屋の掃除との関係

	毎日自分で	たまに自分で	家人の手伝いで	家人により	全くしない	多解答	不記
農業	19.3	62.3	15.8	0.9	1.8	0	0
勤め人	16.7	63.5	13.8	3.4	1.6	0.2	0.7
自家商業	14.9	56.4	16.8	9.9	2.0	0	0
その他	15.7	59.3	15.3	5.6	2.8	0	1.2
不記	7.1	42.9	14.3	0	7.1	0	28.6

表24, 母親の職業と家での仕事との関係

	決っていない	決っている	不記
農業	74.6	25.4	0
勤め人	61.7	37.8	0.4
自家商業	68.8	30.7	0.5
その他	63.7	35.5	0.8
不記	50.0	28.6	21.4

これを父親の職業との関係でみると(表9), 順位の違っているのは商家の子と勤め人の子である。即ち, 父親が商売していると子どもは勤め人の子どもに比べてよく働き, 母親が商売していると子どもの働きが減ることになるが, これは父親が商売していると母親も類似の仕事をしている(表1参照)のに対し, 母親が商売していると父親が勤めに出る割合が高い(表15参照)ことによるであろう。

(10) 家での仕事との関係 表24によると, 家での仕事が決まっている者が最も多いのは勤め人の子で38%, 次いで商家の子の31%, 農家の子は最低の25%である。これを父親の場合(表10)と比較すると, 農家の子が約5%増え, 商家の子が5%減っている。農家の子の母親への協力姿勢(表21参照)と商家の子の甘えをみる思いがする。

(11) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表25によると, ここでは顕著な差は認められない。ただ, 農家の子は気持よくする者が13%と少ないが, 仕立なくでもする者が多いといえる。父親の場合(表11)に比べ, 気持よくする者がやや多いのも(10)で見たことと関連して面白い。勤め人の子と商家の子の間に差はない。農家の仕方なくでもするということに義務の遂行意識を見ることができる。

(12) 対勉強仕事観との関係 表26によると, 母親が農業している子は仕事に価値をおくことが8%と最も低い反面, 勉強に価値をおくことが75%と最大であり, それは父親が農業している場合(表12)より著しい。農作業の厳しさと収益の低さがそのような価値観を作り上げて行くのであろう。農家の嫁問題もこのような過程を経て形成されて行くのであろう。

勤め人や商家の子の勉強観は似ているが, 仕事観はやや異なっている。母親が勤めている場合には仕事価値観が商家の場合より少し高い。そこでは母親の姿が影響しているかも知れない。父親の職業の場合(表12)との関連でみると, 勤め人の子は父親の姿を見て仕事価値観を低め, 勉強価値観を高める。父親をモデルにするとすれば, そのようになるためには勉強が必要だという知恵が働き, 母親の姿を見ては, それ程勉強は必要としないという感じをもつようになることによるのではあるまいか。また, 商家の子は父親の仕事と母親の仕事を区別し, 父親の企業家的性格と母親の従業員の性格を見抜き, 父親の仕事に価値を認めることが多く, 母親の仕事に価値を認めることが少なく, 仕事が大切とする者が10%に留まったものと考えられる。

(13) 仕事価値観との関係 表27によると, 仕事自体に価値を認めている者の多いのは母親が農業している場合である。父親が農業している場合(表13)でも, 仕事を否定的にみている者は13%と最少であったが, 積極的に良いことだと仕事に価値を認めている者は父親の側からみると第二位であったが, 母親の側からみると第一位である。農家の母親の働く姿は子どもの仕事価値観による影響を与えていることがうかがえる。このことは勤め人の子や商家の子においても同様で, 仕事に対する否定的な考え方をもつ者の割合を父親の側からみると勤め人の子は19%, 商家の子は15%で

表25, 母親の職業と仕事を言いつかった時の態度との関係

	嫌いで しない	不足を 言 って す	仕方な く す	気持よ く す	多解答	不 記
農 業	0	20.2	64.9	13.2	0.9	0.9
勤 め 人	0.9	21.1	60.1	16.1	0.9	0.9
自 家 商 業	1.0	21.8	57.9	16.3	2.0	1.0
そ の 他	2.8	22.2	55.6	17.3	0.8	1.2
不 記	0	32.1	32.1	3.6	0	32.1

表26, 母親の職業と対勉強仕事観との関係

	勉強が 大 切	仕事 が 大 切	同 等	不 記
農 業	23.7	7.9	68.4	0
勤 め 人	17.7	13.8	67.7	0.9
自 家 商 業	17.8	10.4	71.3	0.5
そ の 他	16.5	11.7	70.6	1.2
不 記	14.3	21.4	35.7	28.6

表27, 母親の職業と仕事価値観との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
農業	91.2	6.1	1.8	0.9
勤め人	86.2	12.8	0	0.9
自家商業	87.1	9.9	1.5	1.5
その他	82.7	14.1	1.6	1.6
不記	64.3	7.1	0	28.6

表28, 母親の職業といじめとの関係

	いじめた	いじめられた	そんなことなし	両方あり	不記	多解答
農業	4.4	5.3	71.9	14.9	3.5	0
勤め人	17.9	8.3	64.7	7.8	1.1	0.2
自家商業	17.8	7.9	61.4	11.4	0.5	1.0
その他	17.3	9.3	64.1	7.3	1.6	0.4
不記	10.7	7.1	42.9	10.7	28.6	0

あった(表13)が、母親の側からみると、それぞれ13%、10%と数パーセント低い数値を示していることによって分かる。

(14) いじめとの関係 表28によると、母親が農業している子はいじめもいじめられも少なく、そんなことなしが最多の72%である。これに対し、母親が勤めたり、商業の場合はいじめもいじめられも多く、とくにいじめがいじめられの2倍も多い。表14の事実と併せて見ると、いじめ、いじめられが親の職業に関係があることは明らかで、農家の子にあっては慈愛を指導理念とする母親の影響が、そして自己主張的支配的な商業にあっては父親の影響が強く表われるし、支配と従属の混在する勤め人の子にあっては農商の中間的な影響が表われるというようである。

3-3 自宅周辺の環境と他要因との関係

町的环境に住む324名(31.5%)、農村的环境に住む442名(43.0%)、近郊的環境に住む228名(22.2%)、不記者34名(3.3%)計1028名の生徒について分析し、下記の結果を得た。

(1) 父親の職業との関係 表29によると、町的環境には男の勤め人が最も多く、次いで自家商業である。農村的環境にも勤め人が最も多く、次いで農業であり、商家も7%ある。近郊的環境にも勤め人が最も多く、次いで商家、農業の順である。従って、農業は農村にと考えてよいが、勤め人は各地域で大勢を占め、商業は町と近郊が主で農村にも及んでいとみられる。

(2) 母親の職業との関係 表30によると、母親の在り方も父親の場合に類似しているが、自家商業の割合とその他の割合が何れも父親の場合より高くなっている。

(3) 家庭にある栽培施設数との関係 表31によると、田畑等の栽培施設の多いのは農村であり、次いで近郊、町には少ない。町と近郊には全く無い場合が5%、1種の場合が20~30%、2種の場

表29, 自宅周辺の環境と父親の職業との関係

	農業	勤め人	自家商業	その他	不記
町的(324)	1.5	58.3	17.9	18.2	4.0
農村的(442)	21.5	52.9	6.8	15.4	3.4
近郊的(228)	5.3	59.6	11.8	19.3	3.9
不記(34)	0	41.2	17.6	20.6	20.6

表30, 自宅周辺の環境と母親の職業との関係

	農業	勤め人	自家商業	その他	不記
町的	0.6	38.6	28.4	30.6	1.9
農村的	22.9	44.6	11.5	18.3	2.7
近郊的	4.8	44.3	23.7	26.3	0.9
不記	0	38.2	14.7	23.5	23.5

表31, 自宅周辺の環境と家庭にある栽培施設数との関係

	0	1	2	3	4	不記
町的	4.9	30.9	43.5	15.7	4.9	0
農村的	1.1	7.0	13.1	22.4	56.1	0.2
近郊的	5.3	20.6	38.6	20.2	15.4	0
不記	8.8	11.8	32.4	17.6	5.9	23.5

表32, 自宅周辺の環境と家庭で使った道具数との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
0	1.2	0.2	0.9	0
1	1.2	0.7	0.9	0
2	2.2	0.2	0.4	2.9
3	2.8	1.8	2.2	8.8
4	3.1	3.2	3.5	5.9
5	5.9	3.4	7.9	8.8
6	10.8	6.3	7.5	2.9
7	15.7	6.8	13.6	14.7
8	13.9	8.4	13.2	8.8
9	14.2	8.8	12.7	14.7
10	13.3	11.8	12.7	8.8
11	9.6	13.3	13.6	8.8
12	4.0	14.9	5.7	8.8
13	1.5	12.2	3.9	2.9
14	0.6	7.9	1.3	0
不 記	0	0	0	2.9

表33, 自宅周辺の環境と学校で使った道具数との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
0	0.3	0.5	0.4	0
1	4.3	1.4	0.4	8.8
2	10.8	7.9	14.0	17.6
3	15.1	12.0	17.1	20.6
4	11.1	11.8	14.0	14.7
5	9.0	11.1	10.5	11.8
6	8.0	10.2	5.7	2.9
7	8.3	7.9	16.5	0
8	7.7	7.3	6.6	5.9
9	6.2	5.0	9.2	0
10	9.0	9.1	4.8	2.9
11	4.3	7.9	2.2	5.9
12	4.6	6.1	3.5	5.9
13	0.9	1.1	0	0
14	0	0.5	0	0
不 記	0.3	0.2	0.9	2.9

表34, 自宅周辺の環境と父親の仕事振りを見る程度との関係

	よ く 見	時 々 見	全 く 見 ない	不 記
町 的	21.6	51.5	24.1	2.8
農 村 的	28.3	50.8	17.2	3.6
近 郊 的	17.1	51.8	26.8	4.4
不 記	20.6	35.3	17.6	26.5

表35, 自宅周辺の環境と父母と一緒に仕事した程度との関係

	よ く 有	時 々 有	全 く ない	不 記
町 的	17.3	56.8	25.6	0.3
農 村 的	24.0	62.4	12.4	1.1
近 郊 的	18.4	58.3	22.4	0.9
不 記	8.8	50.0	14.7	26.5

合が40%前後で、田園都市にあって、花壇はさることながら、植木鉢さえないということには問題を覚える。

(4) 家庭で使った道具数との関係 表32によると、道具数10種までは農村では他の環境より値が少なく、12種以上は他の環境より際立って大きい。農村部の中学生が多く道具を使ったことを意味する。次に、近郊は町に比べ、道具数3種までと6~10種までは低率で、11~14種では高率であり、近郊の中学生は町の中学生より道具を多く使ったと考えられる。それは農村に農家が多く(29, 30)、栽培施設が多い(表31)ことにより、また近郊は町に比べ、農家が多く(表29, 30)、栽培施設が多いこと(表31)によるであろう。

(5) 学校で使った道具数との関係 表33により、道具数1~8種までを集計してみると、農村の中学生が最低の70%で近郊が最大の79%、町が中間である。また、道具数14~9種までの累計をみると農村が最大で近郊が最小、町が中間である。即ち、農村の子は学校でも道具を多く使っているようである。

(6) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表34によると、農村の中学生は父親の仕事振りをよく見る者が28%と最も多く、全く見ない者が17%と最も少ない。これに対し、近郊の中学生はよく見ることが17%と少なく、全く見ないが27%と最多である。従って農村の中学生は父親の仕事振りを最もよく見、近郊の中学生はそれを見るのが最も少なく、町の中学生は両者の中間である。

(7) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表35によると、農村の中学生はよくあるが24%と最

表36, 自宅周辺の環境と学校掃除の態度との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない	多解答	不記
町 的	20.1	43.2	33.3	2.8	0.3	0.3
農 村 的	25.6	42.3	29.6	2.3	0.2	0
近 郊 的	20.6	41.7	36.0	1.3	0	0.4
不 記	8.8	35.3	23.5	2.9	0	29.4

表37, 自宅周辺の環境と勉強部屋の掃除との関係

	毎 日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に より	全 く しない	多解答	不記
町 的	17.3	60.5	15.4	3.1	3.4	0	0.3
農 村 的	17.2	61.3	14.9	5.0	1.4	0	0.2
近 郊 的	12.7	60.1	16.7	7.5	1.8	0.4	0.9
不 記	14.7	50.0	0	2.9	2.9	0	29.4

表38, 自宅周辺の環境と家での仕事との関係

	決って いない	決って いる	不記
町 的	62.3	37.7	0
農 村 的	71.5	28.1	0.4
近 郊 的	57.5	42.1	0.4
不 記	47.1	29.4	23.5

表39, 自宅周辺の環境と仕事を言いつかった時の態度との関係

	嫌いで しない	不足い ってする	仕方な くする	気持ち よくなる	多解答	不記
町 的	2.5	21.3	57.7	16.0	1.9	0.6
農 村 的	0.5	20.6	62.0	15.8	0.7	0.5
近 郊 的	0.9	25.9	53.9	16.2	0.9	2.2
不 記	2.9	11.8	47.1	8.8	0	29.4

表40, 自宅周辺の環境と対勉強仕事観との関係

	勉強が 大切	仕事 が大切	同 等	不記
町 的	20.4	11.1	67.6	0.9
農 村 的	17.6	10.4	71.7	0.2
近 郊 的	16.7	17.1	65.4	0.9
不 記	8.8	11.8	50.0	29.4

多で、全くないが12%と最少である。これに対し、町の中学生はよくあるが最少の17%、全くないが最多の26%である。従って、農村の中学生は父母と一緒に仕事することが最も多く、次いで近郊の子が多く、町の子は最も少ないといえる。

これを(6)の成績と比較してみると、農村の中学生は父親の仕事振りを見ることが多いと同時に父母と一緒に仕事することも多い。しかし、近郊の中学生は父親の仕事振りを見ることは町の子より少ないが、両親と一緒に仕事するのは町の子より多い。これは、近郊は町より農家が多いことによるであろうと思われる。農業は一緒に仕事する機会を多く持っているのである。

(8) 学校掃除の態度との関係 表36によると、農村の中学生は学校掃除を進んでする者が26%と最も多く、時々さぼったり嫌いでしない者が32%と最少であるから、農村の中学生は学校掃除の態度が良いといえる。町や近郊の中学生は農村の子より劣っているが、町と近郊の子の優劣は断定できない。

(9) 勉強部屋の掃除との関係 表37で指摘できることは、近郊の中学生は毎日自分でする者が13%と少なく、家人によったり全くしない者が9%と最も多く、近郊の子は自室の掃除については成績がよくない。そして町と農村の中学生間には差がない、ということである。

(10) 家での仕事との関係 表38によると、家での仕事が決っている者の多いのは近郊の中学生で、その少ないのは農村の子である。町の子はその中間である。

(11) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表39によると、気持ちよくなる者が三環境とも同じ16%である。嫌いでしない者が町に若干多いかも知れないが、およそ似ているようである。

(12) 対勉強仕事観との関係 表40で指摘できることは、町の中学生は勉強が大切と思う者が多

表41, 自宅周辺の環境と仕事価値観との関係

	良 い ことだ	大した ことなし	無駄な ことだ	不 記
町 的	86.1	10.8	0.9	2.2
農 村 的	87.6	11.3	1.1	0
近 郊 的	84.6	13.6	0.4	1.3
不 記	58.8	11.8	0	29.4

表42, 自宅周辺の環境といじめとの関係

	い じ め た	い じ め ら れ た	そ ん な こ と なし	両 方 あ り	不 記	多 解 答
町 的	15.4	11.1	62.7	9.3	1.2	0.3
農 村 的	16.3	5.4	64.9	11.8	1.4	0.2
近 郊 的	15.4	9.2	68.4	5.3	0.9	0.9
不 記	23.5	5.9	38.2	2.9	29.4	0

く、近郊の中学生は仕事が大切と思う者が多いが、農村の子はむしろ少ないことである。

(13) 仕事価値観との関係 表41によると、仕事自体に対する価値観は地域的には差がないものと見られる。

(14) いじめとの関係 表42によると、そんなことなしが少ないというのはいじめが多いということであるから、町では全体としてのいじめが多く、近郊は少なく、農村は中間であることになる。また、いじめの中身としての加害者側のいじめには差はなく、被害者側のいじめられは町に多く、農村に少ない、といえる。

3-4 家庭にある栽培施設数と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表43によると、父の職業が農業という者の栽培施設保有数4の者は26%、3の者は10%で0~2の者がそれぞれ2~3%である。これに対し、勤め人で、3、4施設保有の者はそれぞれ53、58%もある。自家商業はその0、1の者が20%前後あるが、4の者4%、3、2の者は12、13%もある。従って、この地域の生活構造は大都會的に農、商、サラリーマンというように截然と区分されたものでなく、何れも農業と深く関わったものであることが分かる。とくに、勤め人の農業的色彩は注目に値する。

(2) 母親の職業との関係 表44も前表と同じ傾向を示しているが、農家と商家で4施設を保有

表43, 父親の職業と家庭にある栽培施設数との関係

	農 業	勤 め 人	自 家 商 業	そ の 他	不 記
0	2.8	52.8	22.2	16.7	5.6
1	2.7	47.8	19.8	25.8	3.8
2	2.0	63.4	13.4	17.4	3.7
3	10.4	57.9	11.9	14.4	5.4
4	26.2	53.2	4.3	14.0	2.3
不 記	0	11.1	0	22.2	66.7

表44, 母親の職業と家庭にある栽培施設数との関係

	農 業	勤 め 人	自 家 商 業	そ の 他	不 記
0	2.8	38.9	30.6	19.4	8.3
1	1.1	33.5	29.7	34.1	1.6
2	1.3	44.6	23.5	28.2	2.3
3	9.4	45.5	19.3	24.3	1.5
4	29.2	45.2	9.3	15.0	1.3
不 記	0	0	0	11.1	88.9

表45, 自宅周辺の環境と家庭にある栽培施設数との関係

	町 的	農 村 的	近 郊 的	不 記
0	44.4	13.9	33.3	8.3
1	54.9	17.0	25.8	2.2
2	47.3	19.5	29.5	3.7
3	25.2	49.0	22.8	3.0
4	5.3	82.4	11.6	0.7
不 記	0	11.1	0	88.9

表46, 父母と一緒に仕事した程度と家庭にある栽培施設数との関係

	よ く あ る	時 々 あ る	全 く な い	不 記
0	11.1	63.9	22.2	2.8
1	18.1	50.5	30.8	0.5
2	17.8	60.4	21.1	0.7
3	19.3	65.3	15.3	0
4	25.6	60.8	11.6	2.0
不 記	11.1	0	11.8	77.8

表47, 学校掃除の態度と家庭にある栽培施設数との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない	不記
0	22.9	37.1	37.1	2.9	0
1	19.2	42.9	33.0	4.9	0
2	19.8	47.7	30.5	2.0	0
3	23.9	37.8	37.3	1.0	0
4	26.1	41.5	30.1	1.7	100.0
不記	0	100.0	0	0	0

表50, 言いつかった時の態度と家庭にある栽培施設数との関係

	嫌いで しない	不足をい ってする	仕方な くする	気持よ くする	不記
0	0	20.0	62.9	17.1	0
1	2.2	18.5	63.5	15.2	0.6
2	1.4	24.0	57.1	16.6	1.0
3	0.5	23.9	58.7	16.4	0.5
4	1.3	21.1	59.7	15.8	2.0
不記	0	100.0	0	0	0

表48, 勉強部屋の掃除と家庭にある栽培施設数との関係

	毎日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に より	全く しない	多解答	不記
0	33.3	47.2	8.3	5.6	0	2.8	2.8
1	18.1	54.4	17.6	6.6	3.3	0	0
2	13.4	64.1	15.4	5.0	1.3	0	0.7
3	15.3	61.4	15.8	4.5	3.0	0	0
4	16.6	63.1	13.6	4.0	1.7	0	1.0
不記	0	0	0	0	11.1	0	88.9

表49, 家での仕事と家庭にある栽培施設数との関係

	決って いない	決って いる	不記
0	55.6	41.7	2.8
1	65.4	34.1	0.5
2	59.1	40.6	0
3	64.9	34.7	0.5
4	72.1	27.6	0.3
不記	22.2	11.1	66.7

する者が増え、0～3施設保有の商家が減り、勤め人にあつては何れの数字も減っている。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表45によると、町的、近郊的環境では施設数が増えるに従つてその割合は減少し、農村的環境では逆にその割合が増加している。そして、農村的環境では施設数が多く、町的環境ではそれが少なく、近郊的環境は両者の中間に位置していることも示されている。従つて、施設が多いということは農村的環境にあるし、それが少ないということは町的環境にあるとみることができると思う。

(4) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表46によると、施設数0と1の場合が逆になっているが、施設数が多くなるにつれて、父母と一緒に仕事したことがよくあり、全くない場合が少なくなっている。従つて、この経験の多少は勤労性の形成に関与していることが予想される。

(5) 学校掃除の態度との関係 表47によると、施設数0の場合を除き、施設数が1から4になるにつれ、学校掃除を進んでする者が19%から26%へと順次多くなっており、時々さぼると嫌いでないを合わせた数字は、施設数3の38%を除くと、40, 38, 33, 32と順次少なくなっており、施設数が多いと、中学生の勤労性がよくなる傾向を示すようにみられる。

(6) 勉強部屋の掃除との関係 表48によると、施設数0の中学生は毎日自分で掃除する者が多いことが分かる。他の場合は、施設数1の者が比較的多く毎日掃除している位で、他は大差ない。換言すれば、農業、農村の子は必ずしも自分の部屋掃除に優れた勤労性は発揮していないで、町的、商業的環境の者がよく掃除しているようである。

(7) 家での仕事との関係 表49によると、栽培施設が皆無と1の場合に家での仕事の決っている者が多く、決っていない者が少ない。これに対し、施設数4の場合に、決っている者が少なく、決っていない者が多い。

(8) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表50によると、施設数と仕事を言いつかった時の

表51, 対勉強仕事観と家庭にある栽培施設数との関係

	勉強が 大切	仕事 が 大切	同 等	不 記
0	19.4	11.1	66.7	2.8
1	18.1	15.9	64.8	1.1
2	17.8	11.1	70.5	0.7
3	17.8	11.4	70.8	0
4	18.6	12.0	68.4	1.0
不 記	0	0	11.1	88.9

表52, 仕事価値観と家庭にある栽培施設数との関係

	良 い こと だ	大 し た こ と な し	無 駄 な こ と だ	不 記
0	88.9	8.3	0	2.8
1	82.4	14.8	1.6	1.1
2	86.9	11.4	0.3	1.3
3	88.6	10.4	0.5	0.5
4	85.7	11.6	1.3	1.3
不 記	11.1	0	0	88.9

態度との間には強い関係があるとは言えないようである。

(9) 対勉強仕事観との関係 表51によると、施設数1の場合に仕事が大切であるとする者が多いようであるが、全体の傾向を指摘することはできない。

(10) 仕事価値観との関係 表52によると、施設数1の場合に仕事は良いことだとする者が少ないようであるが、一定の関係を見出すことはできない。

3-5 家庭で使った道具数と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表53によると、父親が農業の場合、使用道具数0~2の者は皆無であり、道具数4の者を除くと道具数3~10の者は5~9%であり、道具数11~14の者は15~25%に及んでいる。勤め人の場合、道具数0, 1の者は14, 33%であるが、使用道具数2~14の者は40~70%に及んでおり、自家商業の場合は、使用道具数0, 1の者は33, 43%と多く、使用道具数2~14の者は3~24%と低迷している。その他の職業の場合は、使用数0の場合に43%と多いが、使用数3~14の者は自家商業の者より多い傾向が見られる。このようにして、家庭で使う道具数は勤め人の子に最も多く、次いで農家の子、その他職業、そして自家商業の順に少ないとみられる。

表53, 父親の職業と家庭で使った道具数との関係

	農 業	勤 め 人	自 家 商 業	そ の 他	不 記
0	0	14.3	42.9	42.9	0
1	0	33.3	33.3	22.2	11.1
2	0	60.0	20.0	20.0	0
3	4.7	40.0	16.0	28.0	12.0
4	14.7	64.7	5.9	14.7	0
5	5.5	43.6	23.6	20.0	7.3
6	8.6	54.3	9.9	19.8	7.4
7	5.1	53.0	16.2	22.2	3.4
8	5.2	70.4	8.7	11.3	4.3
9	7.6	53.8	9.2	24.4	5.0
10	8.7	59.8	16.5	11.8	3.1
11	14.5	54.8	6.5	21.0	3.2
12	22.1	53.7	11.6	9.5	3.2
13	21.7	55.1	7.2	13.0	2.9
14	25.0	55.0	2.5	12.5	5.0
不 記	0	100.0	0	0	0

表54, 母親の職業と家庭で使った道具数との関係

	農 業	勤 め 人	自 家 商 業	そ の 他	不 記
0	0	14.3	28.6	57.1	0
1	0	33.3	33.3	33.3	0
2	0	30.0	40.0	30.0	0
3	4.0	32.0	20.0	40.0	4.0
4	8.8	38.2	26.5	26.5	0
5	1.8	38.2	20.0	34.5	5.5
6	8.6	32.1	27.2	32.1	0
7	3.4	43.6	20.5	28.2	4.3
8	5.2	47.0	19.1	26.1	2.6
9	6.7	40.3	26.1	23.5	3.4
10	7.1	46.5	20.5	22.8	3.1
11	14.5	51.6	12.1	18.5	3.2
12	21.1	41.1	16.8	18.9	2.1
13	34.8	40.6	8.7	14.5	1.4
14	32.5	45.0	15.0	7.5	0
不 記	0	0	0	0	100.0

表55, 自宅周辺の環境と家庭で使った道具数との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
0	57.1	14.3	28.6	0
1	44.4	33.3	22.2	0
2	70.0	10.0	10.0	10.0
3	36.0	32.0	20.0	12.0
4	29.4	41.2	23.5	5.9
5	34.5	27.3	32.7	5.5
6	43.2	34.6	21.0	1.2
7	43.6	25.6	26.5	4.3
8	39.1	32.2	26.1	2.6
9	38.7	32.8	24.4	4.2
10	33.9	40.9	22.8	2.4
11	25.0	47.6	25.0	2.4
12	13.7	69.5	13.7	3.2
13	7.2	78.3	13.0	1.4
14	5.0	87.5	7.5	0

表56, 家庭で使った道具数と父母と一緒に仕事した程度との関係

	よくある	時々ある	全くない	不 記
0	42.9	28.6	28.6	0
1	0	55.6	44.4	0
2	0	40.0	60.0	0
3	0	68.0	32.0	0
4	8.8	61.8	29.4	0
5	10.9	65.5	20.0	3.6
6	12.3	55.6	28.4	3.7
7	16.2	64.1	17.9	1.7
8	12.2	66.1	21.7	0
9	21.8	62.2	14.3	1.7
10	19.7	60.6	17.3	2.4
11	17.7	58.1	22.6	1.6
12	37.9	53.7	7.4	1.1
13	42.0	50.7	5.8	1.4
14	35.0	50.0	15.0	0

(2) 母親の職業との関係 表54には表53の父親の場合と同じ傾向が認められる。しかし、父親の場合と比較すると次の点が指摘できる。農業においては、道具数3～10において幾らか減り、13, 14種においてかなり増加していること、勤め人においては、道具数2種以上で減少していること、自家商業においては勤め人の場合と反対に、道具数2～14でかなり増加していること、その他では道具数0～10でかなり減少していることがそれである。従って、母親が農業や自家商業の場合は子どもは多くの道具を使うようになり、勤め人やその他の職業の場合は子どもの道具使用数が減るとみてよいことになる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表55によると、町的环境では使用道具数0～2の場合は44～70%, 12～14の場合は5～14%である。これに対し、農村的環境では使用道具数0～2の場合は10～33%, 12～14の場合は70～88%である。また、近郊的環境では道具数0～2の場合は10～29%, 12～14の場合は8～14%である。即ち、農村的環境の子どもは最も多くの道具を使い、町的环境の子どもは最も少なく、近郊的環境の子どもはその中間位数の道具を使っていることになる。

(4) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表56によると、道具数0の者で父母と一緒に仕事したことがある者が43%と高率で、農機具を使わない仕事もあるわけである。しかし、使用道具数1～3の者はよくあるが皆無で、全くないが29～60%に及んでおり、使用道具数4～13では使用道具数が増すにつれて、よくあるが漸増し、全くないが漸減の傾向を示しており、父母と一緒に仕事すれば必然的に多様な仕事をする結果、使用道具数も増えることになるのである。

(5) 学校掃除の態度との関係 表57によると、使用道具数1の者が学校掃除を進んでする者皆無であり、時々さぼったり嫌いでしない者の合計が78%に及んだり、使用道具数4の者で進んで掃除する者9%, 時々さぼる者53%であることから、使用道具数の少ない者の中には学校掃除に対して好ましくない反応を示す者が介在しているといえる。しかし、使用道具数と学校掃除の態度との間に一般的傾向を認めることはできないと思う。

(6) 勉強部屋の掃除との関係 表58によると、使用道具数3の者で勉強部屋の掃除を毎日する者が8%と少ないこと、使用道具数0の者で家人によったり、全くしない者の合計が29%, 使用道具数4の者で家人によったり全くしない者の合計が21%であることが目につく。即ち、使用道具数

表57, 家庭で使った道具数と学校掃除の態度との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない	不記
0	28.6	57.1	0	14.3	0
1	0	22.2	55.6	22.2	0
2	10.0	60.0	30.0	0	0
3	30.4	21.7	43.5	4.3	0
4	8.8	38.2	52.9	0	0
5	13.0	48.1	37.0	1.9	0
6	27.5	45.0	26.3	1.3	0
7	21.6	39.7	33.6	4.3	0.9
8	16.5	45.2	37.4	0.9	0
9	19.7	40.2	38.5	0.9	0.9
10	30.6	41.9	24.2	3.2	0
11	22.0	48.8	27.6	1.6	0
12	21.1	48.4	29.5	1.1	0
13	27.5	40.6	30.4	1.4	0
14	37.5	27.5	30.0	5.0	0

表60, 言いつかった時の態度と家庭で使った道具数との関係

	嫌いで しない	不足を いってす	仕方なく す	気持よく する	不記
0	14.3	14.3	42.9	28.6	0
1	12.5	25.0	62.5	0	0
2	10.0	30.0	20.0	40.0	0
3	0	16.7	66.7	16.7	0
4	2.9	23.5	61.8	8.8	2.9
5	0	25.9	66.7	7.4	0
6	0	21.3	66.3	12.5	0
7	0.9	24.3	58.3	14.8	1.7
8	0	18.6	61.1	18.6	1.8
9	2.6	24.3	55.7	15.7	1.7
10	0.8	22.6	63.7	12.1	0.8
11	1.7	23.1	55.4	19.0	0.8
12	0	18.9	63.2	17.9	0
13	2.9	23.2	53.6	17.4	2.9
14	0	17.5	52.5	30.0	0

表58, 勉強部屋の掃除と家庭で使った道具数との関係

	毎日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に より	全く しない	多解答	不記
0	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	0	0
1	22.2	55.6	11.1	11.1	0	0	0
2	20.0	60.0	10.0	0	10.0	0	0
3	8.0	64.0	12.0	4.0	8.0	0	4.0
4	11.8	52.9	14.7	5.9	14.7	0	0
5	16.4	65.5	7.3	9.1	0	0	1.8
6	23.5	53.1	14.8	4.9	1.2	0	2.5
7	19.7	57.3	14.5	6.0	1.7	0	0.9
8	12.2	57.4	25.2	3.5	1.7	0	0
9	13.4	62.2	15.1	6.7	0	0	2.5
10	16.5	60.6	17.3	1.6	1.6	0	2.4
11	16.1	60.5	14.5	4.8	2.4	0.8	0.8
12	17.9	68.4	10.5	2.1	1.1	0	0
13	14.5	62.3	13.0	7.2	1.4	0	1.4
14	15.0	67.5	10.0	5.0	2.5	0	0

表59, 家での仕事と家庭で使った道具数との関係

	決って いない	決って いる	不記	多解答
0	71.4	28.6	0	0
1	66.7	33.3	0	0
2	90.0	10.0	0	0
3	72.0	24.0	4.0	0
4	73.5	26.5	0	0
5	70.9	23.6	5.5	0
6	51.9	46.9	1.2	0
7	68.4	30.8	0.9	0
8	64.3	35.7	0	0
9	60.5	37.0	1.7	0.8
10	62.2	37.8	0	0
11	62.9	36.3	0.8	0
12	65.3	34.7	0	0
13	66.7	33.3	0	0
14	75.0	25.0	0	0

の少ない側に部屋掃除に関する良くない反応が表われているが、全体的にみて、使用道具数と部屋掃除に関して一般的傾向を指摘することは困難である。

(7) 家での仕事との関係 表59によると、使用道具数2つの場合、家での仕事が決っていない者は10%にすぎないが、全体を通してみると、使用道具数の推移と家での仕事の決っている者(決っていない者)の割合の推移の間に正負何れの関係も認めることはできない。

(8) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表60によると、仕事を言いつかって嫌いでしない者の割合の0の者の出方及び割合の推移、気持よくする者の割合の推移をみても、使用道具数とそれらの態度の変化との間には何らかの関係も見出すことはできない。

表61, 対勉強仕事観と家庭で使った道具数との関係

	勉強が大切	仕事が大切	同等	不記
0	28.6	28.6	42.9	0
1	22.2	22.2	44.4	11.1
2	30.0	0	70.0	0
3	28.0	4.0	64.0	4.0
4	14.7	5.9	79.4	0
5	14.5	14.5	69.1	1.8
6	14.8	3.7	80.2	1.2
7	15.4	15.4	68.4	0.9
8	19.1	7.0	73.0	0.9
9	19.3	15.1	63.0	2.5
10	21.3	12.6	63.8	2.4
11	14.5	12.1	71.8	1.6
12	17.9	14.7	67.4	0
13	21.7	17.4	60.9	0
14	15.0	15.0	67.5	2.5

表62, 仕事価値観と家庭で使った道具数との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
0	100.0	0	0	0
1	66.7	11.1	11.1	11.1
2	90.0	0	10.0	0
3	84.0	12.0	0	4.0
4	76.5	20.6	2.9	0
5	81.8	14.5	0	3.6
6	88.9	9.9	0	1.2
7	83.8	14.5	0	1.7
8	87.0	11.3	0.9	0.9
9	86.6	10.1	0.8	2.5
10	85.0	12.6	0	2.4
11	85.5	10.5	0.8	3.2
12	91.6	8.4	0	0
13	82.6	13.0	2.9	1.4
14	85.0	12.5	2.5	0

(9) 対勉強仕事観との関係 表61によると、勉強が大切とする者の割合は使用道具数0～3の場合は、他の場合に比べて顕著に高くなっている。そして使用道具数2, 3, 4, 8, 9, 10, 11, 12, 13の場合は勉強の方が大切とする者が仕事が大切とする者の割合より多く、その出現は15:10である。これに対し、両者の割合が同じであるのは使用道具数0, 1, 5, 7, 14の場合で、その出現は15:5であり、仕事が大切とする者の割合が勉強が大切とする者の割合を越える場合はない。即ち、中学生全体の勉強志向の状況をそこに見ることが出来、また、使用道具数の推移と各価値観の割合の推移との間に何らの傾向を認めることは出来ない。

(10) 仕事価値観との関係 表62によると、使用道具数1と4の場合に仕事は良いことだとする者の割合が67, 77%と少なく、仕事は大したことなし、無駄なことだとする者の割合の合計が22, 24%と多いが、しかし、使用道具数0の者でも全員が仕事は良いことだとし、また、使用道具数の推移と仕事観の各項の割合の推移を総合的にみても両者の間に正負何れの関係も認められない。

3-6 学校で使った道具数と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表63によると、使用道具数0～14の推移と各職業に示されている割合の推移の間には関係があることは考えられない。

(2) 母親の職業との関係 表64によると、(1)でみたと同じことが指摘でき、母親の職業と学校での使用道具数との間には関係がないとみられる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表65によると、使用道具数が最も多いのは、町的环境では1種類の場合、農村的环境では11, 13, 14種類、近郊的环境では9種類、の場合である。即ち、学校で道具使用数の多いのは農村で、近郊的环境がこれに次ぎ、町的环境では少ないものと見做される。それは学校に栽培施設を設けそれを運営することの難易度と関連があるように思われる。このことは特に意図しない場合の現象であって、教育的必然性をそこに見ることは出来ない。戦時中における東京都内のお茶の水女高師附属高等女学校、都立第二高等女学校、私立跡見高等女学校は都心部

表63, 父親の職業と学校で使った道具数との関係

	農 業	勤 め 人	自家商業	そ の 他	不 記
0	0	25.0	25.0	50.0	0
1	4.2	41.7	16.7	29.2	8.3
2	10.2	51.9	13.0	21.3	3.7
3	10.1	57.4	9.5	19.6	3.4
4	10.4	53.6	11.2	20.8	4.0
5	16.0	51.9	11.3	16.0	4.7
6	15.3	51.8	10.6	15.3	7.1
7	10.5	54.7	10.5	18.6	5.8
8	4.1	67.6	14.9	10.8	2.7
9	4.8	52.4	11.1	25.4	6.3
10	11.1	64.2	12.3	11.1	1.2
11	14.3	57.1	12.5	12.5	3.6
12	15.4	59.6	13.5	7.7	3.8
13	0	87.5	12.5	0	0
14	0	50.0	50.0	0	0
不 記	20.0	40.0	0	20.0	20.0

表64, 母親の職業と学校で使った道具数との関係

	農 業	勤 め 人	自家商業	そ の 他	不 記
0	0	25.0	25.0	50.0	0
1	4.2	20.8	25.0	37.5	12.5
2	6.5	33.3	19.4	38.0	2.8
3	9.5	42.6	20.9	24.3	2.7
4	9.6	39.2	22.4	27.2	1.6
5	15.1	44.3	17.9	17.9	4.7
6	14.1	45.9	18.8	18.8	2.4
7	10.5	38.4	25.6	25.6	0
8	9.5	44.6	16.2	29.7	0
9	7.9	49.2	22.2	19.0	1.6
10	13.6	44.4	17.3	21.0	3.7
11	19.6	48.2	16.1	10.7	5.4
12	13.5	51.9	17.3	15.4	1.9
13	0	75.0	0	25.0	0
14	0	50.0	0	50.0	0
不 記	20.0	40.0	0	20.0	20.0

表65, 自宅周辺の環境と学校で使った道具数との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
0	25.0	50.0	25.0	0
1	58.3	25.0	4.2	12.5
2	32.4	32.4	29.6	5.6
3	33.1	35.8	26.4	4.7
4	28.8	41.6	25.6	4.0
5	27.4	46.2	22.6	3.8
6	30.6	52.9	15.3	1.2
7	31.4	40.7	27.9	0
8	33.8	43.2	20.3	2.7
9	31.7	34.9	33.3	0
10	35.8	49.4	13.6	1.2
11	25.0	62.5	8.9	3.6
12	28.8	51.9	15.4	3.8
13	37.5	62.5	0	0
14	0	100.0	0	0
不 記	20.0	20.0	40.0	20.0

表66, 学校で使った道具数と父母と一緒に仕事した程度との関係

	よくある	時々ある	全くない	不 記
0	0	75.0	25.0	0
1	8.3	50.0	33.3	8.3
2	13.0	55.6	29.6	1.9
3	16.9	57.4	25.0	0.7
4	12.8	66.4	20.0	0.8
5	17.0	62.3	17.9	2.8
6	16.5	62.4	17.6	3.5
7	23.3	64.0	11.6	1.2
8	28.4	60.8	9.5	1.4
9	9.5	63.5	25.4	1.6
10	33.3	51.9	14.8	0
11	35.1	50.9	12.3	1.8
12	40.4	53.8	5.8	0
13	25.0	62.5	12.5	0
14	50.0	50.0	0	0
不 記	0	60.0	20.0	20.0

に位置しながら、郊外に農場を設け、農耕作業を課していた事例があるからである。

(4) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表66によると、使用道具数0～6の場合は父母と一緒に仕事したことがよくある者0～17%、全くない者18～33%であるが、道具数7～14の場合で、よくある者は9の場合を除き、23～50%であり、全くない者0～25%(9の場合を除けば0～15%)である。即ち、学校で道具を多く使う者は父母と一緒に仕事することも多いが、学校で道具を少ししか使わない者は父母と一緒に仕事することも少ないとみられる。

(5) 学校掃除の態度との関係 表67によると、学校で使った道具数0～6の場合では、学校掃除を進んでする者の割合は0～27%、時々さぼる者と嫌いでしない者の合計は31～50%であり、使

表67, 学校で使った道具数と学校掃除の態度との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない	不記
0	0	50.0	25.0	25.0	0
1	9.1	45.5	40.9	4.5	0
2	17.0	39.6	39.6	3.8	0
3	24.0	32.9	41.1	2.1	0
4	26.6	38.7	33.1	1.6	0
5	22.9	45.7	29.5	1.9	0
6	26.2	40.5	29.8	3.6	0
7	20.0	49.4	29.4	0	1.2
8	14.9	45.9	36.5	2.7	0
9	19.0	54.0	27.0	0	0
10	24.7	45.7	27.2	1.2	1.2
11	28.6	48.2	21.4	1.8	0
12	30.8	42.3	23.1	3.8	0
13	12.5	50.0	37.5	0	0
14	0	50.0	0	50.0	0
不記	25.0	25.0	50.0	0	0

表70, 言いつかった時の態度と学校で使った道具数との関係

	嫌いで しない	不足を いってす	仕方なく する	気持よく する	不記
0	25.0	25.0	25.0	25.0	0
1	9.5	14.3	57.1	19.0	0
2	0	22.6	60.4	16.0	0.9
3	2.1	22.1	60.0	13.8	2.1
4	2.4	26.8	59.3	11.4	0
5	0	19.0	68.6	12.4	0
6	2.4	18.1	65.1	14.5	0
7	1.2	18.8	56.5	20.0	3.5
8	1.4	24.7	57.5	15.1	1.4
9	0	27.4	56.5	16.1	0
10	0	23.8	52.5	22.5	1.3
11	0	23.2	55.4	19.6	1.8
12	0	15.4	59.6	23.1	1.9
13	0	37.5	50.0	12.5	0
14	0	0	100.0	0	0
不記	0	25.0	50.0	25.0	0

表68, 勉強部屋の掃除と学校で使った道具数との関係

	毎日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に よる	全く しない	多解答	不記
0	25.0	50.0	25.0	0	0	0	0
1	4.2	70.8	16.7	0	0	0	8.3
2	14.8	61.1	13.0	6.5	3.7	0	0.9
3	12.2	66.9	14.2	4.7	0.7	0	1.4
4	19.2	52.8	18.4	3.2	4.0	0.8	1.6
5	8.5	76.4	8.5	2.8	2.8	0	0.9
6	16.5	57.6	15.3	9.4	0	0	1.2
7	18.6	54.7	14.0	9.3	1.2	0	2.3
8	14.9	58.1	17.6	5.4	2.7	0	1.4
9	23.8	58.7	12.7	4.8	0	0	0
10	16.0	63.0	16.0	2.5	2.5	0	0
11	28.6	41.1	19.6	3.6	5.4	0	1.8
12	17.3	57.7	19.2	3.8	1.9	0	0
13	12.5	75.0	12.5	0	0	0	0
14	0	100.0	0	0	0	0	0
不記	40.0	20.0	20.0	0	0	0	20.0

表69, 家での仕事と学校で使った道具数との関係

	決って いない	決って いる	不記
0	100.0	0	0
1	66.7	25.0	8.3
2	64.8	35.2	0
3	68.2	30.4	1.4
4	63.2	35.2	1.6
5	67.0	32.1	0.9
6	75.3	23.5	0
7	60.5	38.4	1.2
8	67.6	32.4	0
9	52.4	47.6	0
10	55.6	44.4	0
11	59.6	38.6	1.8
12	69.2	30.8	0
13	75.0	25.0	0
14	50.0	50.0	0
不記	60.0	20.0	20.0

用道具数7~13の場合では、掃除を進んでする者は13~31%と増え、時々さぼったり嫌いでしない者は23~40%と減っている。従って、蓋然的にはあるが、学校での道具使用数と学校掃除の態度との間には関係があって、道具を多く使う状況にあれば掃除に対する態度もよいといえる。

(6) 勉強部屋の掃除との関係 表68によると、学校で使う道具数の推移と勉強部屋を毎日自分でする者の割合の推移、あるいは家人による者や全くしない者の割合の推移を比較してみても、そこに一定の関係を見出すことはできない。即ち、両者間に関係を生むに至っていない。

表71, 対勉強仕事観と学校で使った道具数との関係

	勉強が大切	仕事が大切	同等	不記
0	50.0	0	50.0	0
1	4.2	8.3	75.0	12.5
2	23.1	8.3	67.0	0.9
3	18.2	13.5	66.2	2.0
4	20.0	12.8	65.6	1.6
5	20.8	10.4	67.9	0.9
6	15.3	15.3	68.2	1.2
7	18.6	9.3	70.9	1.2
8	17.6	12.2	68.9	1.4
9	19.0	14.3	66.7	0
10	19.8	9.9	70.4	0
11	15.8	15.8	66.7	1.8
12	1.9	15.4	82.7	0
13	25.0	12.5	50.0	12.5
14	0	50.0	50.0	0
不記	20.0	20.0	40.0	20.0

表72, 仕事価値観と学校で使った道具数との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
0	50.0	25.0	25.0	0
1	75.0	12.5	0	15.5
2	88.9	8.3	0.9	1.9
3	87.2	8.8	0.7	3.4
4	76.0	20.0	1.6	2.4
5	85.8	13.2	0	0.9
6	83.5	14.1	1.2	1.2
7	91.9	7.0	0	1.2
8	86.5	10.8	1.4	1.4
9	85.7	14.3	0	0
10	93.8	6.2	0	0
11	84.2	12.3	0	3.5
12	88.5	7.7	3.8	0
13	62.5	37.5	0	0
14	50.0	50.0	0	0
不記	80.0	0	0	20.0

(7) 家での仕事との関係 表69によると、学校で使った道具数の推移と家での仕事の決っていない者の割合の推移、あるいは決っている者の割合の推移との間には一定の関係があるとは考えられない。その割合の数値は道具数0の場合を除き、50～75%あるいは25～50%の間を前後しているからである。従って、学校での道具使用数と家での仕事は別の次元に属する関係にあると認められる。

(8) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表70によると、学校での道具使用数0の者は嫌いでしない者が25%と多いが、同時に気持ちよくする者も25%と比較的多く、また道具使用数1の者も同じことが言え、これらの場合は特に悪いとも良いともいえない。さらに、道具数2～14の者の嫌いでしない者の割合は0～2%であり、気持ちよくする者の割合も使用数14の0%を除き、11～23%の間を前後しており、一定の関係を示しているとはいえない。従って、学校での道具使用数と仕事を言いつかった時の態度との間には関係はなく、それぞれ別の事項として存在しているといえようと思う。

(9) 対勉強仕事観との関係 表71によると、道具数7までをみると、勉強が大切とする方が高率の場合が6例で、仕事を大切とする率との差の平均は16%であり、仕事が大切とする方が高率の場合が1例である。これに対し、道具数7以上の場合は、勉強の方が大切とする方が高率の場合が5例であり、仕事が大切とする率との差の平均は8%であり、仕事が大切とする方が高率の場合が2例である。従って蓋然的であるが、学校で使う道具数が多いと仕事にも価値を認める生徒が増えるといえそうである。

(10) 仕事価値観との関係 表72によると、仕事は良いことだとする者の割合は学校での道具使用数が増えると共に増えているとはいえない。加えて、使用道具数13, 14の場合には50～60%代と著しく低下している。しかし、道具数8～12の場合は80～90%代を保っているが、道具数0～7の場合は0, 1, 4において50～70%代を示している。従って、極めて蓋然的にはあるが、学校における道具使用数は12までにあっては多い方が勤労観の形成に望ましい結果をもたらすであろうと

いえよう。

3-7 父親の仕事振りを見る程度と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表73によると、父親の仕事振りをよく見るのは勤め人の子でその率は37%である。しかし、勤め人の子で時々見る者は更に多く63%であり、全く見ない者は69%に及んでいる。勤め人の子にはよく見る型とよく見ない型が混在している。次いで自家商業の子は31%がよく見、時々見るのは8%、全く見ないのは1%である。農家の子は20%がよく見、11%が時々見、全く見ないのは2%である。父親が農業と商業であれば、その子が父親の仕事振りを見ないことは少ないようである。

(2) 母親の職業との関係 表74は前表とその傾向を同じくしている。その数値が前表より低いのはその他の職業が多いためであろう。また、自家商業の子が父親の仕事振りを全く見ない者が17%あるということは、この父親が勤め人として外で働いていることによるものと考えられる。母親が農業をしても、父親の仕事振りを見ないことは稀であるのも特徴的である。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表75によると、父親の仕事振りを最もよく見るのは農村的環境の子で52%に及んでいる。農村的環境の子は同時に、時々見る者、全く見ない者が43%、34%と順次低率を示している特徴が認められる。次いで町的環境の子の29%がよく見るが、ここでは時々見るが32%、全く見ないが35%と順次増加している。近郊的環境の子はよく見るが16%にすぎないばかりでなく、時々見るが23%、全く見ないが28%と、順次増加している。このようにして農村の子は父親の仕事振りを見るという点において他の環境よりも優れているといえよう。

表73, 父親の職業と父親の仕事振りを見る程度との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
よく見る	19.5	37.3	31.1	12.0	0
時々見る	11.3	62.6	8.1	17.5	0.6
全く見ない	2.3	68.8	1.4	24.0	3.6
不 記	2.3	9.1	2.3	11.4	75.0

表74, 母親の職業と父親の仕事振りを見る程度との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
よく見る	20.7	29.0	24.1	25.3	0.8
時々見る	10.7	44.0	19.8	23.4	2.1
全く見ない	2.3	52.0	17.2	24.9	3.6
不 記	4.5	50.0	6.8	22.7	15.9

表75, 自宅周辺の環境と父親の仕事振りを見る程度との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
よく見る	29.0	51.9	16.2	2.9
時々見る	32.1	43.0	22.6	2.3
全く見ない	35.3	34.4	27.6	2.7
不 記	20.5	36.4	22.7	20.5

表77, 学校掃除の態度と父親の仕事振りを見る程度との関係

	進んで する	仕方なく する	時々 さぼる	嫌いで しない	不 記
よく見る	28.9	39.3	28.9	2.9	0
時々見る	21.7	44.1	31.9	1.9	0.4
全く見ない	17.7	42.3	37.7	2.3	0
不 記	18.2	48.5	30.3	3.0	0

表76, 父母と一緒に仕事した程度と父親の仕事振りを見る程度との関係

	よくある	時々ある	全くない	不 記
よく見る	48.3	49.2	2.5	0
時々見る	12.9	69.3	17.3	0.6
全く見ない	8.6	49.3	42.1	0
不 記	9.1	47.7	11.4	31.8

表78, 勉強部屋の掃除と父親の仕事振りを見る程度との関係

	毎日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝いで	家人に より	全く しない	多解答	不 記
よく見る	20.7	58.1	16.2	4.1	0.8	0	0
時々見る	14.4	61.8	17.5	4.6	1.7	0	0
全く見ない	14.0	63.8	9.0	7.2	4.1	0.5	1.4
不 記	20.5	40.9	9.1	0	4.5	0	25.0

(4) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表76によると、父親の仕事振りを見る程度の如何にかかわらず、父母と一緒に時々仕事した程度の者が多く、中でも時々見る者が最も多い。このことは親子の接触の度合いが、時々程度であることを示しており、戦後の親子関係の実情をよく表わしていると思われる。次に、父親の仕事振りをよく見る者は父母と一緒に仕事することが多く、一緒に仕事しない者が少ない。また逆に、仕事振りを全く見ない者は父母と一緒に仕事することも少なく、仕事しないことが多い、という関係も示している。父親の仕事振りをよく見る者は父母と一緒に仕事することが最も多いことが期待されたにもかかわらず、それが中位に留まっていることは、子供が全体として親の手伝いをしなくなっていることの表われでもある。

(5) 学校掃除の態度との関係 表77によると、父親の仕事振りをよく見る者で学校掃除を進んでする者は29%、時々さぼったり嫌いでしない者の合計は32%、次いで時々見る者で学校掃除を進んでする者は22%、好ましくない者の合計は34%、そして全く見ない者で進んでする者は18%、好ましくない者の合計は40%である。即ち、父親の仕事振りをよく見る者はよく見ない者に比べて、学校掃除を進んでする者が多く、怠ける者が少ない。従って父親の仕事振りを見る程度によって、学校掃除の態度が規定されている側面があることを示している。

(6) 勉強部屋の掃除との関係 表78によると、父親の仕事振りをよく見る者で部屋掃除を毎日自分でする者は21%、家人によったり全くしない者の合計は5%、次いで時々見る者で毎日自分でする者が14%強、好ましくない者の合計が6%、そして全く見ない者で毎日自分でする者は14%、好ましくない者の合計は11%である。これらを総合して考えると、父親の仕事振りを見る程度と勉強部屋の掃除振りとの間には関係があって、よく見る者はよく掃除し、全く見ない者は掃除することが少ないといえるようである。

(7) 家での仕事との関係 表79によると、父親の仕事振りをよく見る者で家での仕事の決っている者は38%、決っていない者は62%、時々見る者で仕事の決っている者は34%、決っていない者は66%、そして全く見ない者で仕事の決っている者は29%、決っていない者は70%である。即ち、父親の仕事振りを見る量の減少と共に毎日自分で掃除する者が減り怠る者が増加しているのだから、父親の仕事振りを見る程度は家での仕事振りをも規定している要因であるとみなし得ると思う。

(8) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表80によると、父親の仕事振りをよく見る者で、仕事を言いつかって嫌いでしない者は0.4%、気持ちよくする者は20%である。この数字は時々見る者の1.5%、14%、全く見ない者の1.8%、17%より優れた状態を示すものとみてよいと思う。即ち、時々見る者と全く見ない者との差を論ずることは出来ないが、これらとよく見る者との差は指摘することができると思う。従って、父親の仕事振りをよく見ることは、仕事を言いつかった時の反応に好影響を与えるとみてよい。

表79, 家での仕事と父親の仕事振りを見る程度との関係

	決っていない	決っている	不記	多解答
よく見る	62.0	37.6	0.4	0
時々見る	65.8	34.0	0.2	0
全く見ない	70.1	29.0	0.5	0.5
不記	38.6	45.5	15.9	0

表80, 言いつかった時の態度と父親の仕事振りを見る程度との関係

	嫌いでしない	不足をいっている	仕方なくする	気持ちよくする	不記
よく見る	0.4	23.2	55.6	19.5	1.2
時々見る	1.5	21.9	61.1	14.3	1.2
全く見ない	1.8	21.7	59.0	17.1	0.5
不記	0	20.6	64.7	11.8	2.9

表81, 対勉強仕事観と父親の仕事振りを
見る程度との関係

	勉強が 大切	仕事が大 切	同 等	不 記
よく見る	19.0	16.5	64.5	0
時々見る	15.5	11.7	72.4	0.4
全く見ない	22.6	9.0	66.5	1.8
不 記	18.2	9.1	50.0	22.7

表82, 仕事価値観と父親の仕事振りを
見る程度との関係

	良 い ことだ	大した ことなし	無駄な ことだ	不 記
よく見る	89.3	9.9	0	0.8
時々見る	86.9	10.7	1.3	1.0
全く見ない	82.4	15.4	0.9	1.4
不 記	63.6	13.6	0	22.7

(9) 対勉強仕事観との関係 表81によると、父親の仕事振りをよく見る者で仕事が大切とする者は最多の17%、時々見る者は中位の12%、全く見ない者は最少の9%で、父親の仕事振りを見る程度に応じて対勉強仕事価値観を高めていることが分かる。これに対して、勉強に対する価値観は父親の仕事振りを見る程度に対応していない面があるが、全く見ない者が勉強に価値を求めるようになるのは当然の結果であろう。

(10) 仕事価値観との関係 表82によると、父親の仕事振りをよく見る者で、仕事は良いことだとする者は最多の89%、仕事は大したことなし、無駄なことだというように否定的な評価をする者の合計は最少の10%、仕事振りを時々見る者で仕事は良いことだとする者は中位の87%、否定的評価者の合計も中位の12%、仕事振りを全く見ない者で良いことだとする者は最少の82%、否定的評価者は最多の16%である。即ち、父親の仕事振りを見る程度と仕事価値観はかなり明らかな関係があって、父親の仕事振りをよく見れば、仕事に対する価値観が高くなり、見ることが少なければ、仕事に対して、否定的な考えをもつ者が増えることになる。

3-8 父母と一緒に仕事した程度と他要因との関係

(1) 自宅周辺の環境との関係 表83によると、父母と一緒に仕事をする事の多い環境は農村的環境で、よくあるが51%である。これに対し、全くないことの多いのは町的環境で43%に及んでいる。農村的環境は時々あるも45%に及び、父母と一緒に仕事することが多いようである。近郊的環境は、父母と一緒に仕事することがよくある者も20%と少なく、時々あるが22%、全くないが26%と漸増し、町的環境と共に父母と一緒に仕事することは多いとはいえない。

(2) 家庭にある栽培施設数との関係 表84によると、施設数0~2までは、よくあると全くないが2:4, 16:29, 26:33というように父母と一緒に仕事することがよくあるよりは、全くない方が高率になっている。しかし、3以上になるとその比が19:16, 37:18というように、よくあるよりは全くない方が低率になっている。即ち、栽培施設が3以上になると、父母と一緒に仕事する機会が増えるものと考えられ、栽培施設が親子共同作業の場の一つになっていることを示している。

(3) 家庭で使った道具数との関係 表85によると、父母と一緒に仕事したことがよくある者の

表83, 自宅周辺の環境と父母と一緒に仕事
した程度との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
よくある	27.1	51.2	20.3	1.4
時々ある	30.2	45.2	21.8	2.8
全くない	42.8	28.4	26.3	2.6
不 記	5.9	29.4	11.8	52.9

表84, 家庭にある栽培施設数と父母と一緒に仕事した程度
との関係

	0	1	2	3	4	不 記
よくある	1.9	15.9	25.6	18.8	37.2	0.5
時々ある	3.8	15.1	29.5	21.6	30.0	0
全くない	4.1	28.9	32.5	16.0	18.0	0.5
不 記	5.9	5.9	11.8	0	35.3	41.2

表85, 家庭で使った道具数と父母と一緒に
仕事した程度との関係

	よ く あ る	時 々 あ る	全 く な い	不 記
0	1.4	0.3	1.0	0
1	0	0.8	2.1	0
2	0	0.7	3.1	0
3	0	2.8	4.1	0
4	1.4	3.4	5.2	0
5	2.9	5.9	5.7	11.8
6	4.8	7.4	11.9	17.6
7	9.2	12.3	10.8	11.8
8	6.8	12.5	12.9	0
9	12.6	12.1	8.8	11.8
10	12.1	12.6	11.3	17.6
11	10.6	11.8	14.4	11.8
12	17.4	8.4	3.6	5.9
13	14.0	5.7	2.1	5.9
14	6.8	3.3	3.1	0
不 記	0	0	0	5.9

表86, 学校で使った道具数と父母と一緒に
仕事した程度との関係

	よ く あ る	時 々 あ る	全 く な い	不 記
0	0	0.5	0.5	0
1	1.0	2.0	4.1	11.8
2	6.8	9.8	16.5	11.8
3	12.1	13.9	19.1	5.9
4	7.7	13.6	12.9	5.9
5	8.7	10.8	9.8	17.6
6	6.8	8.7	7.7	17.6
7	9.7	9.0	5.2	5.9
8	10.1	7.4	3.6	5.9
9	2.9	6.6	8.2	5.9
10	13.0	6.9	6.2	0
11	9.7	4.8	3.6	5.9
12	10.1	4.6	1.5	0
13	1.0	0.8	0.5	0
14	0.5	0.2	0	0
不 記	0	0.5	0.5	5.9

表87, 父親の仕事振りを見る程度と父母と
一緒に仕事した程度との関係

	よ く 見 る	時 々 見 る	全 く 見 ない	不 記
よくある	56.5	32.4	9.2	1.9
時々ある	19.5	59.2	17.9	3.4
全くない	3.1	46.4	47.9	2.6
不 記	0	17.6	0	82.4

表88, 学校掃除の態度と父母と一緒に仕事した程度
との関係

	進 ん で す る	仕 方 な く す る	時 々 さ ぼ る	嫌 い で し な い	不 記
よくある	32.4	35.3	29.0	3.4	0
時々ある	21.6	44.8	31.8	1.5	0.3
全くない	14.1	44.3	38.0	3.6	0
不 記	28.6	42.9	28.6	0	0

道具数ごとの割合をみると、1～3個が0%，4～8個が1けた代、9～13個が10%代であり、全くない者の推移は、0～5個が1けた代、6～11個が10%代(9個は1けた代)、12～14個は1けた代である。時々ある者は全くない者より、使用数は少ないとみられる。即ち、父母と一緒に仕事したことがよくある者はそうでない者より、多くの道具を使っていると考えられる。

(4) 学校で使った道具数との関係 表86によって、10%代のあらわれ方を見ると、父母と一緒に仕事したことがよくあるのは道具数3, 7, 8, 10～12において、時々あるのは2～5において、全くないのは2～4において高い率で出現している。即ち、父母と一緒に仕事したことがある者は、学校においても多くの道具を使った状況にあったことを示している。

(5) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表87によると、父母と一緒に仕事したことがよくある者は父親の仕事振りをよく見る者57%と多く、全く見ない者は9%と少ない。時々ある者は、よく見る者が20%と減り、全く見ないは18%と増えている。全く父母と一緒に仕事しない者で、仕事振りをよく見る者が更に3%に減り、全く見ない者は48%と急増している。即ち、父母と一緒に仕事すれば、必然的に父親の仕事振りを多く見る結果になるのであろう。

(6) 学校掃除の程度との関係 表88によると、父母と一緒に仕事したことがよくある者で、学校掃除を進んでする者は最多の32%、時々さぼったり嫌いでしない否定的態度の者は32%、一緒に

仕事したことが時々ある者で、進んでする者は中位の22%，否定的態度の者は最多の42%である。即ち、父母と一緒に仕事をよくすることは学校掃除の態度にも影響を与えているとみることが出来る。

(7) 勉強部屋の掃除との関係 表89によると、父母と一緒に仕事することがよくある者で、勉強部屋を毎日自分で掃除する者は最多の24%，否定的態度の者は合わせて最少の4%である。時々一緒に仕事することのある者で、毎日自分で掃除する者は中位の16%，否定的態度の者は7%，一緒に仕事したことが全くない者で、毎日自分で掃除する者は最少の10%，否定的態度の者は最多の11%である。即ち、父母と一緒に仕事するという事は自分の勉強部屋の掃除に対しても好ましい影響を及ぼしている、あるいは両者に共通の基盤があることを示している。

(8) 家での仕事との関係 表90によると、家での仕事の決っていない者の方が多いのであるが、決っていない者の割合の推移を見ると、父母と一緒に仕事したことがよくある者は54%と少なく、全くない者は71%と多い。また、仕事の決っている者の割合の推移を見ると、一緒に仕事したことがよくある者は46%と多く、全くない者は29%と少ない。時々ある者は両方共中間値である。従って、ここでも両親と一緒に仕事することと、家での仕事との間に関係が存在することが指摘できる。

(9) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表91によると、父母と一緒に仕事したことがよくある者で、仕事を言いつかって気持ちよくする者は他の場合の14、15%より多い23%であり、嫌いでしない者は他の場合が1、3%であるのは対し皆無である。従って、一緒に仕事する度合に応ずる程ではないが、よくあるという程度に仕事を一緒にすれば、仕事を言いつかった時に望ましい反応を示すに至ることを示している。

(10) 対勉強仕事観との関係 表92によると、父母と一緒に仕事することがよくあるという程度であれば、仕事は大切であるとする者の割合が、他の場合の10、13%に比べ16%と比較的多くなっていることが分かる。

(11) 仕事価値観との関係 表93によると、父母と一緒に仕事することがよくあるという程度であれば、仕事は良いことだとする者が他の場合に比べて5、6%多い91%、否定的価値観について

表89, 勉強部屋の掃除と父母と一緒に仕事をした程度との関係

	毎日自分で	たまに自分で	家人の手伝いで	家人により	全くしない
よくある	23.8	62.1	10.8	2.9	1.0
時々ある	15.7	60.8	16.6	5.1	1.8
全くない	10.4	62.2	16.1	6.7	4.7
不記	28.6	57.1	14.3	0	0

表90, 家での仕事と父母と一緒に仕事をした程度との関係

	決っていない	決っている	不記
よくある	53.6	46.4	0
時々ある	67.5	32.0	0.5
全くない	70.6	28.9	0.5
不記	29.4	29.4	41.2

表91, 仕事を言いつかった時の態度と父母と一緒に仕事した程度との関係

	嫌いでしない	不足をいってす	仕方なくす	気持ちよくする	不記
よくある	0	20.9	53.9	23.3	1.9
時々ある	1.3	22.4	61.1	14.2	1.0
全くない	2.6	22.9	59.4	14.6	0.5
不記	0	14.3	85.7	0	0

表92, 対勉強仕事観と父母と一緒に仕事した程度との関係

	勉強が大切	仕事が大	同等	不記
よくある	17.4	16.4	65.7	0.5
時々ある	18.9	10.3	70.7	0.2
全くない	17.5	13.4	67.0	2.1
不記	0	11.8	29.4	58.8

表93, 仕事価値観と父母と一緒に仕事した程度との関係

	良 い ことだ	大した ことなし	無駄な ことだ	不 記
よくある	90.8	7.7	0.5	1.0
時々ある	85.1	13.4	0.7	0.8
全くない	85.6	10.8	2.1	1.5
不 記	35.3	5.9	0	58.8

は5, 6%少ない8%である。即ち, よくあるという程度に父母と一緒に仕事すれば, 仕事に対する価値観が高まることを示している。

3-9 学校掃除の態度と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表94によると, 学校掃除を進んでする者の多いのは勤め人の子で59%に及ぶが, 勤め人の子は同時に, 仕方なくする者, 時々さぼる者, 嫌いではない者も多いので, 総体として学校掃除の成績が良いとは言えない。また商家の子は掃除を進んでする者も少なく仕方なくする者, 時々さぼる者, とくに嫌いではない者が多いので, 学校掃除については好ましくない状況にある。それに対し農家の子は進んでする者は中位であるが, 他の好ましくない者が少ないので, 良い反応を示しているとみられる。

(2) 母親の職業との関係 表95によっても前表と同様の傾向がみられる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表96によると, 近郊的環境にある者で, 学校掃除が嫌いではない者は少ないが, 進んでする者も少なく, 時々さぼる者が多いので, 好ましい状況にあるとはいえない。町的环境の子は進んでする者が中位であるが, 時々さぼる者, 嫌いではない者が増加しているので, 好ましい状況にあるとはいえない。これに対し, 農村的環境の子は進んでする者が最多であるが, 他の好ましくない反応を示している者がかなり多いので, 明らかに好ましい状況にあるとはいえない。

表94, 父親の職業と学校掃除の態度との関係

	農 業	勤 め 人	自家商業	そ の 他	不 記
進んでする	15.8	58.8	9.6	13.6	2.2
仕方なくする	9.7	56.5	12.7	17.5	3.7
時々さぼる	9.1	55.0	11.6	20.1	4.3
嫌いではない	8.7	47.8	21.7	17.4	4.3
不 記	50.0	50.0	0	0	0

表95, 母親の職業と学校掃除の態度との関係

	農 業	勤 め 人	自家商業	そ の 他	不 記
進んでする	16.7	43.9	18.0	20.6	0.9
仕方なくする	9.9	44.5	18.9	24.0	2.8
時々さぼる	9.7	40.7	22.5	25.8	1.2
嫌いではない	4.3	26.1	17.4	43.5	8.7
不 記	0	50.0	50.0	0	0

表96, 自宅周辺の環境と学校掃除の態度との関係

	町 的	農 村 的	近 郊 的	不 記
進んでする	28.5	49.6	20.6	1.3
仕方なくする	32.3	43.1	21.9	2.8
時々さぼる	32.8	39.8	24.9	2.4
嫌いではない	39.1	43.5	13.0	4.3
不 記	50.0	50.0	0	0

表97, 家庭にある栽培施設数と学校掃除の態度との関係

	0	1	2	3	4	不 記
進んでする	3.5	15.4	25.9	21.1	34.2	0
仕方なくする	3.0	18.0	32.7	17.5	28.6	0.2
時々さぼる	4.0	18.2	27.7	22.8	27.4	0
嫌いではない	4.3	39.1	26.1	8.7	21.7	0
不 記	0	0	0	0	100.0	0

表98, 家庭で使った道具数と学校掃除の態度との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない
0	0.9	0.9	0	4.3
1	0	0.5	1.5	8.7
2	0.4	1.4	0.9	0
3	3.1	1.2	3.0	4.3
4	1.3	3.0	5.5	0
5	3.1	6.0	6.1	4.3
6	9.6	8.3	6.4	4.3
7	11.0	10.6	11.9	21.7
8	8.3	12.0	13.1	4.3
9	10.1	10.8	13.7	4.3
10	16.7	12.0	9.1	17.4
11	11.8	13.8	10.3	8.7
12	8.8	10.6	8.5	4.3
13	8.3	6.5	6.4	4.3
14	6.6	2.5	3.6	8.7

表99, 学校で使った道具数と学校掃除の態度との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない	不記
0	0	0.5	0.3	4.3	0
1	0.9	2.3	2.7	4.3	0
2	7.9	9.7	12.8	17.4	0
3	15.4	11.1	18.2	13.0	0
4	14.5	11.1	12.5	8.7	0
5	10.5	11.1	9.4	8.7	0
6	9.6	7.8	7.6	13.0	0
7	7.5	9.7	7.6	0	50.0
8	4.8	7.8	8.2	8.7	0
9	5.3	7.8	5.2	0	0
10	8.8	8.5	6.7	4.3	50.0
11	7.0	6.2	3.6	4.3	0
12	7.0	5.1	3.6	8.7	0
13	0.4	0.9	0.9	0	0
14	0	0.2	0	4.3	0
不記	0.4	0.2	0.6	0	0

表100, 父親の仕事振りを見る程度と学校掃除の態度との関係

	よく 見る	時々 見る	全く 見ない	不記
進んでする	30.7	49.6	17.1	2.6
仕方なくする	21.9	53.0	21.4	3.7
時々さぼる	21.3	50.5	25.2	3.0
嫌いでしない	30.4	43.5	21.7	4.3
不記	0	100.0	0	0

表101, 父母と一緒に仕事した程度と学校掃除の態度との関係

	よく あ	時々 あ	全く ない	不記
進んでする	29.4	57.9	11.8	0.9
仕方なくする	16.8	62.9	19.6	0.7
時々さぼる	18.2	59.0	22.2	0.6
嫌いでしない	30.4	39.0	30.4	0
不記	0	100.0	0	0

(4) 家庭にある栽培施設数との関係 表97によると、施設数2以上の者に、進んでする者が高率になっていて、家庭にある栽培施設数と学校掃除の態度に関係があることを思わせる。しかし、施設数2の者は同時に好ましくない反応を示す者が多く、施設数3の者も時々さぼる者が高率を示しているので、問題が残る。しかし、施設4の者は好ましくない反応が順次低下しているので、傾向として、学校掃除の態度も良いであろうとみなすことができる。

(5) 家庭で使った道具数との関係 表98によると、学校掃除を進んでする割合が10%代を示しているのは道具数6～11種であり、仕方なくする者は道具数7～12種、時々さぼる者は7～11種、嫌いでしない者も7～10種の範囲にある。また、道具数0～6及び12～14で示されている割合の状況をみても、家庭で使った道具数と学校掃除の態度との間に積極的な関係を指摘することはできない。

(6) 学校で使った道具数との関係 表99によると、学校掃除を進んでする者の割合が10%を越える場合は道具数3～6、同様にして仕方なくする場合は道具数2～7、時々さぼる場合は道具数2～4、嫌いでしない場合は2～6の時であり、道具数7以上で0%を3回記録していることから、学校での道具使用数と学校掃除の態度との間に若干の関係があるにしても、それは極めて稀薄なものと考えられる。

表102, 勉強部屋の掃除と学校掃除の態度との関係

	毎 日 自 分 で	た ま に 自 分 で	家 人 の 手 伝 で	家 人 に よ り	全 く し な い
進んでする	22.0	60.8	12.8	2.2	2.2
仕方なくする	17.2	60.6	16.0	3.9	2.3
時々さぼる	11.9	63.2	16.4	7.3	1.2
嫌いでしない	13.0	56.5	8.7	13.0	8.7
不 記	0	50.0	0	50.0	0

表103, 家での仕事と学校掃除の態度との関係

	決 っ て い な い	決 っ て い る	不 記
進んでする	62.3	37.7	0
仕方なくする	62.0	37.6	0.5
時々さぼる	70.2	29.5	0.3
嫌いでしない	87.0	13.0	0
不 記	50.0	50.0	0

表104, 仕事を言いつかった時の態度と学校掃除の態度との関係

	嫌 い で し な い	不 足 を い っ て す る	仕 方 な く す る	気 持 ち よ く す る	不 記
進んでする	0.4	15.9	53.1	29.6	0.9
仕方なくする	0.9	19.5	65.2	13.7	0.7
時々さぼる	1.5	30.1	57.1	10.4	0.9
嫌いでしない	13.0	21.7	52.2	8.7	4.3
不 記	0	0	0	0	100.0

表105, 対勉強仕事観と学校掃除の態度との関係

	勉 強 が 大 切	仕 事 が 大 切	同 等	不 記
進んでする	16.2	7.5	75.9	0.4
仕方なくする	20.5	11.5	68.0	0
時々さぼる	16.4	12.8	69.6	1.2
嫌いでしない	17.4	65.2	17.4	0
不 記	0	50.0	50.0	0

(7) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表100によると、父の仕事振りをよく見る者で、学校掃除を進んでする者31%と嫌いでしない者30%との間には差はあるとはいえ、時々見る者についても傾向は認められない。ただ、全く見ない者では、進んでする者17%より、時々さぼる者25%、嫌いでしない者22%は若干高率である。即ち、父親の仕事振りを全く見ない者の中には、学校掃除に積極的になく掃除を怠る者が多い傾向があるとみられる。しかし、よく見る者は学校掃除をよくするとは限らないという程度の関係である。

(8) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表101によると、前表で見たと同じような関係にあるといえる。即ち父母と一緒に仕事したことが全くない者は学校掃除に積極的になく（進んでする者が最少の12%）、怠る者が多い（さぼる者22%、しない者30%）傾向がある。しかし、一緒に仕事したことがよくある者は学校掃除をよくするとは限らない程度の関係である。

(9) 勉強部屋の掃除との関係 表102によると、学校掃除を進んでする者は、毎日自分で勉強部屋の掃除をする者22%、自分でしない者4%であり、学校掃除が嫌いでしない者では、毎日自分で勉強部屋の掃除をする者13%、自分でしない者22%である。即ち、学校掃除の態度と勉強部屋の掃除の在り様には関係があつて、学校掃除をよくする者は自室の掃除もよくし、学校掃除を怠る者は自室の掃除も怠りがちであるといえそうである。

(10) 家での仕事との関係 表103によると、学校掃除を嫌いでしない者では、家での仕事が決っていない者は最多の87%、決っている者は最少の13%であり、学校掃除を時々さぼる者では、家での仕事の決っていない者は70%、決っている者は30%で、学校掃除を進んでする者では、決っていない者が62%と少なく、決っている者が38%と多い。従つて、学校掃除が嫌いでしない者は家でも仕事しないであろうとみることができる。しかし、学校掃除を進んでする者と仕方なくする者の、家での仕事の決り方は同率であるから学校掃除を積極的にする者と消極的にする者との間には、家での仕事振りに差はないといえる。即ち、学校掃除を積極的に進んでする者も、家での仕事を定期的に多くするとはいえないのであつて、現段階では学校掃除は家庭仕事に対して波及効果を及ぼし

表106, 仕事価値観と学校掃除の態度との関係

	良 い ことだ	大した ことなし	無駄な ことだ	不 記
進んでする	93.0	5.2	0.9	0.9
仕方なくする	85.3	14.1	0.5	0.2
時々さぼる	83.9	13.1	1.2	1.8
嫌いではない	78.3	17.4	4.3	0
不 記	100.0	0	0	0

ていないとみられる。

(1) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表104によると、学校掃除を進んでする者は仕事を言いつかって嫌いではない者が0.4%と少なく、気持ちよくする者が30%と多い。そして、学校掃除を嫌いではない者は仕事を言いつかってもしない者が13%と多く、気持ちよくする者が9%と少なく、仕方なくする者、時々さぼる者の、仕事を言いつかってしない者や気持ちよくする者の割合が上記二者の中間に順増、漸減の関係に配列されている。従って、学校掃除に対する態度は、明らかに、仕事を言いつかった時の態度に転移しているとみることができようと思う。

(2) 対勉強仕事観との関係 表105によると、学校掃除に対する態度の各相毎の勉強が大切とする者の割合の推移は不規則かつ僅差であって、学校掃除と勉強価値観が無関係であるかのようである。また、仕事が大切とする者の推移をみると、学校掃除を進んでする者は8%であるのに対し、嫌いではない者の65%が仕事が大切だという奇妙な現象—学校掃除が嫌いではないのは仕事が大切だからということになる。これは仕事は大切だという考え方が行動に移されていないこと、知行不一致を示したものである。

(3) 仕事価値観との関係 表106によると、学校掃除を進んでする者には、仕事は良いことだとする者が最多の93%、価値を認めない者は最少の6%、時々さぼる者はそれぞれ84、14%であり、嫌いではない者はそれぞれ最少の78%と最多の22%で仕事自体の価値観の多少と掃除振りに関係があることを示している。従って(2)と(3)によって、中学生は学校掃除を仕事価値観と結びつけて実践しているとみられる面があるが、それは必ずしも知行合一に到ってはいないとみられる。

3-10 勉強部屋の掃除と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表107によると、勤め人の子は、毎日自分で掃除する者も家人による者も全くしない者も最多である。自家商業の子は、毎日自分でする者は中位であり、全くしない者は最少であるが、家人による者が中位であるので、勤労性が特に高いとはいえない。農家の子は家人による者は最少、全くしない者は中位であるが、毎日自分でする者は最少である。従って、こ

表107, 勉強部屋の掃除と父親の職業との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
毎日自分で	11.4	51.2	13.3	20.5	3.6
たまに自分で	11.6	57.0	11.4	16.4	3.5
家人の手伝で	1.0	60.4	12.3	13.6	2.6
家人により	2.0	50.0	14.0	32.0	2.0
全くしない	9.1	54.5	4.5	18.2	13.6
多 解 答	0	100.0	0	0	0
不 記	7.1	21.4	7.1	7.1	57.1

表108, 勉強部屋の掃除と母親の職業との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
毎日自分で	13.3	44.0	18.1	23.5	1.2
たまに自分で	11.4	44.6	18.4	23.7	1.9
家人の手伝で	11.7	39.0	22.1	24.7	2.6
家人により	2.0	30.0	40.0	28.0	0
全くしない	9.1	31.8	18.2	31.8	9.1
多 解 答	0	100.0	0	0	0
不 記	0	21.4	0	21.4	57.1

表109, 勉強部屋の掃除と自宅周辺の環境との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
毎日自分で	33.7	45.8	17.5	3.0
たまに自分で	31.6	43.6	22.1	2.7
家人の手伝で	32.5	42.9	24.7	0
家人により	20.0	44.0	34.0	2.0
全くしない	50.0	27.3	18.2	4.5
多 解 答	0	0	100.0	0
不 記	7.1	7.1	14.3	71.4

表110, 勉強部屋の掃除と家庭にある栽培施設数との関係

	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個	不 記
毎日自分で	7.2	19.9	24.1	18.7	30.1	0
たまに自分で	2.7	15.9	30.8	20.0	30.6	0
家人の手伝で	1.9	20.8	29.9	20.8	26.6	0
家人により	4.0	24.0	30.0	18.0	24.0	0
全くしない	0	27.3	18.2	27.3	22.7	4.5
多 解 答	100.0	0	0	0	0	0
不 記	7.1	0	14.3	0	21.4	57.1

表111, 勉強部屋の掃除と家庭で使った道具数との関係

	毎 日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に より	全 く しない	多解答	不 記
0	0.6	0.5	0.6	2.0	4.5	0	0
1	1.2	0.8	0.6	2.0	0	0	0
2	1.2	1.0	0.6	0	4.5	0	0
3	1.2	2.6	1.9	2.0	9.1	0	7.1
4	2.4	2.9	3.2	4.0	22.7	0	0
5	5.4	5.8	2.6	10.0	0	0	7.1
6	11.4	6.9	7.8	8.0	4.5	0	14.3
7	13.9	10.8	11.0	14.0	9.1	0	7.1
8	8.4	10.6	18.8	8.0	9.1	0	0
9	9.6	11.9	11.7	16.0	0	0	21.4
10	12.7	12.4	14.3	4.0	9.1	0	21.4
11	12.0	12.1	11.7	12.0	13.6	100.0	7.1
12	10.2	10.5	6.5	4.0	4.5	0	0
13	6.0	6.9	5.8	10.0	4.5	0	7.1
14	3.6	4.3	2.6	4.0	4.5	0	0
不 記	0	0	0	0	0	0	7.1

では明らかな関係を指摘する何物もない。

(2) 母親の職業との関係 表108によると、商家の子で全くしない者が中位である外は、前表と同様な関係を示しており、自室の掃除振りで示される勤労性は親の職業では測れないことになる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表109によると、農村的環境では毎日自分でする者が多いようであるが、家人による者も最多であるので、勉強部屋の掃除と環境との関係についてとくに指摘するものはない。

(4) 家庭にある栽培施設数との関係 表110によると施設数1の者は毎日自分でする者20%、全くしない者27%であるが、施設数4の者は毎日自分でする者が30%と多く、全くしない者が23%と比較的少ないので、施設数4の者は1の者より、勤労性が高いと見なされる。

(5) 家庭で使った道具数との関係 表111により、毎日自分でする者の割合の推移と家人によったり、全くしない者の割合の推移をみると、道具数0～5の者は毎日自分でする者が少ない反面、4種区を除き自分でしない者も少ない。また、6～12種の者は毎日自分でする者が多いと同時に自分でしない者も多い。強いていえば、13, 14種の者は自分でする者が9, 15%と比較的多く、自分でしない者が4, 6%と少ないから、勤労性が高いといえよう。

表112, 勉強部屋の掃除と学校で使った道具数との関係

	毎日自分で	たまに自分で	家人の手伝いで	家人により	全くしない	多解答	不記
3	10.8	16.0	13.6	14.0	4.5	0	14.3
4	14.5	10.6	14.9	8.0	22.7	100.0	14.3
5	5.4	13.1	5.8	6.0	13.6	0	7.1
6	8.4	7.9	8.4	16.0	0	0	7.1
7	9.6	7.6	7.8	16.0	4.5	0	14.3
8	6.6	6.9	8.4	8.0	9.1	0	7.1
9	9.0	6.0	5.2	6.0	0	0	0
10	7.8	8.2	8.4	4.0	0	0	0
11	9.6	3.7	7.1	4.0	9.1	0	7.1
12	5.4	4.8	6.5	4.0	13.6	0	0
13	0.6	1.0	0.6	0	4.5	0	0
14	0	0.3	0	0	0	0	0
不記	1.2	0.2	0.6	0	0	0	7.1

表113, 勉強部屋の掃除と父親の仕事振りを見る程度との関係

	よく見る	時々見る	全く見ない	不記
毎日自分で	30.3	45.5	18.8	5.5
たまに自分で	22.5	51.9	22.7	2.9
家人の手伝いで	25.3	59.1	13.0	2.6
家人により	20.0	48.0	32.0	0
全くしない	9.1	40.9	40.9	9.1
多解答	0	0	100.0	0
不記	0	0	21.4	78.6

表114, 勉強部屋の掃除と父母と一緒に仕事した程度との関係

	よくある	時々ある	全くない	不記
毎日自分で	29.5	57.2	12.0	1.2
たまに自分で	20.6	59.4	19.3	0.6
家人の手伝いで	13.6	65.6	20.1	0.6
家人により	12.0	62.0	26.0	0
全くしない	9.1	50.0	40.9	0
多解答	0	100.0	0	0
不記	7.1	14.3	7.1	71.4

表115, 勉強部屋の掃除と学校掃除の態度との関係

	進んでする	仕方なくする	時々さぼる	嫌いでしない	多解答	不記
毎日自分で	30.1	44.6	23.5	1.8	0	0
たまに自分で	22.2	42.0	33.5	2.1	0.2	0
家人の手伝いで	18.8	44.8	35.1	1.3	0	0
家人により	10.0	34.0	48.0	6.0	2.0	0
全くしない	22.7	45.5	18.2	9.1	0	4.5
多解答	0	100.0	0	0	0	0
不記	7.1	14.3	0	0	0	78.6

(6) 学校で使った道具数との関係 表112について、前表と同様な見方をしてみると、道具数5と6において劣り、道具数9と10において優れているかに見えるが、この特定な道具数に特有の反応を起こす必然性を見出すことはできない。

(7) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表113によると、よく見る者は毎日自分でする者が30%と多く、自分でしない者は20, 9%と少ない。これに対し、全く見ない者は毎日自分でする者が19%と少なく、自分でしない者が32, 41%と多い。従って、父親の仕事振りを見る程度と勉強部屋の掃除する程度との間には関係があるとみられる。

(8) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表114によると、よくある者で、毎日自分でする者は30%と多く、自分でしない者は12, 9%と少ない。これに対し、全くない者で、毎日自分でする者は12%と少なく、自分でしない者は26, 41%と多い。従って、父母と一緒に仕事した程度と勉強部屋の掃除の程度との間には関係があるとみられる。

(9) 学校掃除の態度との関係 表115によると、学校掃除を進んでする者で毎日自分で勉強部屋の掃除をする者は30%と多く、自分でしない者は10, 23%と少ない。これに対し、学校掃除をさぼる者で勉強部屋を毎日自分で掃除する者は26%と比較的少なく、自分でしない者は54, 27%と多い。従って、学校掃除の態度と勉強部屋の掃除程度との間には、ある程度関係が認められる。

表116, 勉強部屋の掃除と家での仕事との関係

	決っていない	決っている	不記
毎日自分で	56.0	44.0	0
たまに自分で	66.2	33.5	0.3
家人の手伝いで	66.9	33.1	0
家人により	72.0	26.0	2.0
全くしない	86.4	13.6	0
多解答	100.0	0	0
不記	14.3	28.6	57.1

表117, 勉強部屋の掃除と仕事を言いつかった時の態度との関係

	嫌いでしない	不足をいってやる	仕方なくする	気持よくする	多解答	不記
毎日自分で	1.2	20.5	53.0	23.5	1.2	0.6
たまに自分で	1.0	22.1	62.0	14.3	0.3	0.3
家人の手伝いで	1.3	23.4	57.1	15.6	0.6	1.9
家人により	6.0	22.0	56.0	10.0	4.0	2.0
全くしない	0	18.2	5.5	22.7	13.6	0
多解答	0	100.0	0	0	0	0
不記	0	0	7.1	0	7.1	85.7

表118, 勉強部屋の掃除と対勉強仕事観との関係

	勉強が大切	仕事が大切	同等	不記
毎日自分で	19.3	7.8	72.3	0.6
たまに自分で	18.2	12.4	68.9	0.5
家人の手伝いで	16.2	9.1	74.7	0
家人により	12.0	30.0	58.0	0
全くしない	40.9	27.3	31.8	0
多解答	0	0	100.0	0
不記	0	0	14.3	85.7

表119, 勉強部屋の掃除と仕事価値観との関係

	良いことだ	大したことはない	無駄なことだ	不記
毎日自分で	91.0	8.4	0	0.6
たまに自分で	85.8	12.7	0.8	0.6
家人の手伝いで	88.3	9.1	1.3	1.3
家人により	82.0	18.0	0	0
全くしない	68.2	18.2	9.1	4.5
多解答	100.0	0	0	0
不記	14.3	0	0	85.7

(10) 家での仕事との関係 表116によると、毎日自分でする望ましい状態から、全くしない望ましくない割合の推移を見てみると、家での仕事の決っていない場合には漸増し、決っている場合には漸減している。従って、家での仕事が決っていないよりは、決っている方が、勉強部屋の掃除には良い作用があるといえる。しかし、決っていない場合と決っている場合を比較すると前者の方が多し。即ち、現在の中学生は家での仕事の決っていない場合が多いといえる。

(11) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表117によると、どの場合でも不足を言っている者が20%前後あるから、中学生は一般に仕事を余計なことと思っているのかも知れない。言いつかったことを気持ちよくする者の割合を見ると、勉強部屋を毎日自分でする者では24%、家人の手伝いによる者16%、家人による者10%で、勉強部屋の掃除の状況と仕事を言いつかった時の態度との間に関係のあることがうかがえる。とくに、家人による者の6%は嫌いでしないという。仕事は本来、自分のすることでないと思得ているのであろうか。また、全く掃除しない者でも23%の者が気持よくするのは、言いつかったことを仕事としてでなく、言いつかるという関係においてとらえているためであろう。

(12) 対勉強仕事観との関係 表118によると、毎日自分で掃除する者にしても全くしない者にしても勉強が大切とする者の方が多い。家の人によって掃除してもらおう者は逆に、仕事の方が大切であるとする者が多いが、この場合の仕事は自分のするものでなく、家人のするものとしてとらえているとみなければならない。総じて中学生は仕事より勉強の方を大切にしているとみられる数字である。

(13) 仕事価値観との関係 表119によると、中学生は勉強部屋の掃除振りの如何にかかわらず、半数以上の者は仕事に価値を認めていることになる。しかし、掃除振りのよい群ほど、仕事に価値

を抱く者の割合が高くなっている。仕事価値観は勉強部屋掃除に幾らか反映されているようである。

3-11 家での仕事と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表120によると、父親が勤め人の場合は家での仕事が決まっている割合の方がやや多く、農業の場合はその逆に決っていない方がかなり多い。

(2) 母親の職業との関係 表121によると、(1)の場合のほかに、自家商業の場合も決っていない方が多いといえる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表122によると、町的环境と近郊的環境では家での仕事が決まっている場合が多く、農村的環境では決っていない場合が顕著に多い。

(4) 家庭にある栽培施設数との関係 表123によると施設数2の場合は家での仕事が決まっている

表120, 父親の職業と家での仕事との関係

	農 業	勤 め 人	自家商業	そ の 他	不 記
決っていない	13.1	55.0	11.6	17.1	0.6
決っている	6.5	58.5	12.2	17.6	0.6
不 記	20.0	10.0	10.0	10.0	1.3
不 明	0	0	0	100.0	0
平 均	10.9	55.7	11.8	17.1	4.5

表121, 母親の職業と家での仕事との関係

	農 業	勤 め 人	自家商業	そ の 他	不 記
決っていない	12.8	40.5	20.9	23.8	2.1
決っている	8.2	46.9	17.6	25.0	2.3
不 記	0	10.0	10.0	20.0	60.0
不 明	0	100.0	0	0	0
平 均	11.1	42.4	19.6	24.1	2.7

表122, 自宅周辺の環境と家での仕事との関係

	町 的	農 村 的	近 郊 的	不 記
決っていない	30.4	47.5	19.7	2.4
決っている	34.7	35.2	27.3	2.8
不 記	0	10.0	10.0	80.0
不 明	0	100.0	0	0
平 均	31.5	43.0	22.2	3.3

表123, 家庭にある栽培施設数と家での仕事との関係

	0	1	2	3	4	不 記
決っていない	3.0	17.9	26.5	19.7	32.6	0.3
決っている	4.3	17.6	34.4	19.9	23.6	0.3
不 記	10.0	10.0	0	10.0	10.0	60.0
不 明	0	0	100.0	0	0	0
平 均	3.5	17.7	29.0	19.6	29.3	0.9

表124, 家庭で使った道具数と家での仕事との関係

	決 っ て いる	決 っ て いない	不 記	不 明
0	0.8	0.6	0	0
1	0.9	0.9	0	0
2	1.4	0.3	0	0
3	2.7	1.7	10.0	0
4	3.8	2.6	0	0
5	5.9	3.7	30.0	0
6	6.3	10.8	10.0	0
7	12.0	10.2	10.0	0
8	11.1	11.6	0	0
9	10.8	12.5	20.0	100
10	11.9	13.6	0	0
11	11.7	12.8	10.0	0
12	9.3	9.4	0	0
13	6.9	6.5	0	0
14	4.5	2.8	0	0
不 記	0	0	10.0	0

表125, 学校で使った道具数と家での仕事との関係

	決 っ て いる	決 っ て いない	不 記	不 明
0	0.6	0	0	0
1	2.4	1.7	20.0	0
2	10.5	10.8	0	0
3	15.2	12.8	20.0	0
4	11.9	12.5	20.0	0
5	10.7	9.7	10.0	0
6	9.6	5.7	0	100
7	7.8	9.4	10.0	0
8	7.5	6.8	0	0
9	5.0	8.5	0	0
10	6.8	10.2	0	0
11	5.0	6.3	10.0	0
12	5.4	4.5	0	0
13	0.9	0.6	0	0
14	0.2	0.3	0	0
不 記	0.5	0.3	10.0	0

ことが多く、施設数 4 の場合はその逆である。(1)と(2), (3)が関与しているためであろう。

(5) 家庭で使った道具数との関係 表124によると、道具数と家で決った仕事の有無との間に一定の関係があるとはいえない。

(6) 学校で使った道具数との関係 表125によると、両者間は無関係であるといえる。

(7) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表126によると家で仕事の決っている者では父の仕事振りをよく見る者は、決っていない者の22%に対し26%と多く、全く見ない者では決っていない者の32%に対し18%と少ない。従って家で決った仕事を与えると、自然に父親の仕事振りを多く見ることになり、関連した効果をもたらすことが期待できる。

(8) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表127は前表と同様なことを示している。即ち、家で仕事の決っている者では、父母と一緒に仕事することがよくある者は、決っていない者の17%に対し、27%と多く、全くない者では、決っていない者の21%に対し、16%と少ない。従って、家で決った仕事を与えると、自然に父母と一緒に仕事することになり、関連した効果をもたらすことが期待できる。

(9) 学校掃除の態度との関係 表128によると、家での仕事の決っている者では、学校掃除を進んでする者が、決っていない者の21%に対して24%とやや多く、時々さぼる者が、決っていない者の35%に対して28%と少なく、嫌いでしない者もやや少ない。従って、家で仕事が決っている者は学校掃除に対してもよい態度を取らせる傾向をもつといえようと思う。

(10) 勉強部屋の掃除との関係 表129によると、家での仕事の決っている者では、自室を毎日自分で掃除する者が、決っていない場合の14%に対して21%と多く、家人によったり全くしない者が若干少なくなっている。従って、家での仕事が決っているということは、自分の勉強部屋の掃除にも好影響を与えているとみられる。

(11) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表130によると、家での仕事の決っている者では、仕事を言いつかって気持ちよくする者が、仕事の決っていない者の15%に対して18%と幾らか多く、嫌いでしない者がごく僅かに少ない。従って、家で決った仕事を与えると、仕事を言いつけた時に

表126, 父親の仕事振りを見る程度と家での仕事との関係

	よく見る	時々見る	全く見ない	不記
決っていない	22.4	51.7	23.3	2.6
決っている	25.9	50.3	18.2	5.7
不記	10.0	10.0	10.0	70.0
不明	0	0	100.0	0
平均	23.5	50.7	21.5	4.3

表128, 学校掃除の態度と家での仕事との関係

	進んでする	仕方なくする	時々さぼる	嫌いでしない	多解答	不記
決っていない	21.4	40.5	34.7	3.0	0.2	0.3
決っている	24.4	46.3	27.6	0.9	0.3	0.6
不記	0	20.0	0	0	0	80.0
不明	0	0	100.0	0	0	0
平均	22.2	42.2	32.0	2.2	0.2	1.2

表127, 父母と一緒に仕事をした程度と家での仕事との関係

	よくある	時々ある	全くない	不記
決っていない	16.7	62.0	20.6	0.8
決っている	27.3	55.4	15.6	1.4
不記	0	20.0	10.0	70.0
不明	0	100.0	0	0
平均	20.1	59.3	18.9	1.7

表129, 勉強部屋の掃除と家での仕事との関係

	毎日自分で	たまに自分で	家人の手伝いで	家人により	全くしない	多解答	不記
決っていない	14.0	61.8	15.5	5.4	2.9	0.2	0.3
決っている	20.7	59.1	14.5	3.7	0.9	0	1.1
不記	0	20.0	0	0	0	0	80.0
不明	0	0	0	100.0	0	0	0
平均	16.1	60.4	15.0	4.9	2.1	0.1	1.4

表130, 仕事を言いつかった時の態度と家での仕事との関係

	嫌いで しない	不足を 言ってる	仕方なく する	気持ちよ くする	多解答	不記
決っていない	1.7	22.6	59.7	14.6	0.9	0.6
決っている	0.6	20.2	57.7	18.2	1.4	2.0
不記	0	20.0	0	0	0	80.0
不明	0	0	0	100.0	0	0
平均	1.3	21.7	58.4	15.8	1.1	1.8

表131, 対勉強仕事観と家での仕事との関係

	勉強が 大切	仕事 が大切	同等	不記
決っていない	18.8	12.5	68.0	0.8
決っている	17.0	11.9	70.2	0.9
不記	0	0	20.0	80.0
不明	0	0	100.0	0
平均	18.0	12.2	68.3	1.6

表132, 仕事価値観と家での仕事との関係

	良い ことだ	大した ことなし	無駄な ことだ	不記
決っていない	86.0	12.0	0.9	1.1
決っている	86.4	11.4	0.9	1.4
不記	20.0	0	0	80.0
不明	100.0	0	0	0
平均	85.5	11.7	0.9	1.9

表133, いじめと家での仕事との関係

	いじめた	いじめ られた	そんな ことなし	両方あり	不記	多解答
決っていない	15.6	7.2	67.5	7.7	1.7	0.3
決っている	17.3	9.9	59.1	12.2	0.9	0.6
不記	0	0	10.0	10.0	80.0	0
不明	0	0	100.0	0	0	0
平均	16.1	8.1	64.1	9.2	2.1	0.4

幾らかよい反応を示すようになるといえようと思う。

(12) 対勉強仕事観との関係 表131によると、家での仕事が決っている者では、勉強が大切とする者は、決っていない者の19%に対し17%である。仕事が大切とする者では12%と13%で若干関係がありそうであるが、断定的に言うことは困難である。

(13) 仕事価値観との関係 表132によると、家での仕事が決っていても、決ってなくても、仕事価値観には差が認められない。

(14) いじめとの関係 表133によると、仕事の決っている者では、いじめた者は、決っていない者の16%に対して17%，いじめられた者は7%と10%，いじめなしが68%と59%，両方ありが8%と12%で、仕事の決っている者は、どちらかといえばいじめられ型、決っていない者はいじめ型に属するようにみられる。

3-12 仕事を言いつかった時の態度と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表134によると、仕事を言いつかって嫌いでしない者と気持ちよくする者との関係は、農業で8：8，勤め人で31：59，商業で8：12，その他で54：18である。従って、勤め人と商業の場合は望ましく、その他は望ましくなく、農業では何ともいえないことになる。

(2) 母親の職業との関係 表135によると、(1)でみた関係は、農家で0：9，勤め人で31：43，商業で15：20，その他で54：27である。従って、勤め人，商業，その他の職業では父親の場合と同じであるが、農業の場合だけが異なり、母親が農業していると、素直な反応を示すことになるのみられる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表136により、上でみた関係を抽出すると、町的環境では62：32，農村的環境では15：43，近郊的環境では15：23で、町的環境だけが、仕事を言いつかった時に好ましくない反応を示し、農村的環境と近郊的環境では好ましい反応を示すようである。

(4) 家庭にある栽培施設数との関係 表137により、上でみた関係を抽出すると、施設数0では

表134, 父親の職業と仕事を言いつかった時の態度との関係

	農 業	勤 め 人	自 家 商 業	そ の 他	不 記
嫌いでしない	7.7	30.8	7.7	53.8	0
不 足 を 言 っ て す る	10.8	55.6	10.3	20.2	3.1
仕方なくする	11.8	56.2	12.3	15.7	4.0
気持よくする	8.0	58.6	12.3	17.9	3.1
多 解 答	18.2	45.5	18.2	9.1	9.1
不 記	5.3	42.1	5.3	10.5	36.8
平 均	10.9	55.7	11.8	17.3	4.3

表135, 母親の職業と仕事を言いつかった時の態度との関係

	農 業	勤 め 人	自 家 商 業	そ の 他	不 記
嫌いでしない	0	30.8	15.4	53.8	0
不 足 を 言 っ て す る	10.3	41.3	19.7	24.7	4.0
仕方なくする	12.3	43.7	19.5	23.0	1.5
気持よくする	9.3	43.2	20.4	26.5	0.6
多 解 答	9.1	36.4	36.4	18.2	0
不 記	5.3	21.1	10.5	15.8	47.4
平 均	11.1	42.4	19.6	24.1	2.7

表136, 自宅周辺の環境と仕事を言いつかった時の態度との関係

	町 的	農 村 的	近 郊 的	不 記
嫌いでしない	61.5	15.4	15.4	7.7
不 足 を 言 っ て す る	30.9	40.8	26.5	1.8
仕方なくする	31.2	45.7	20.5	2.7
気持よくする	32.1	43.2	22.8	1.9
多 解 答	54.5	27.3	18.2	0
不 記	10.5	10.5	26.3	52.6
平 均	31.5	43.0	22.2	3.3

表137, 家庭にある栽培施設数と仕事を言いつかった時の態度との関係

	0	1	2	3	4	不 記
嫌いでしない	0	30.8	30.8	7.7	30.8	0
不 足 を 言 っ て す る	3.1	14.8	31.8	21.5	28.3	0.4
仕方なくする	3.7	18.8	28.2	19.7	29.7	0
気持よくする	3.7	16.7	30.2	20.4	29.0	0
多 解 答	0	9.1	27.3	9.1	54.5	0
不 記	5.3	21.1	10.5	15.8	15.8	42.1
平 均	3.5	17.7	29.0	19.6	29.3	0.9

表138, 家庭で使った道具数と仕事を言いつかった時の態度との関係

	嫌 い で し ない	不 足 を 言 っ て す る	仕 方 な く す る	気 持 よ く す る	多 解 答	不 記
0	7.7	0.4	0.5	1.2	0	0
1	7.7	0.9	0.8	0	0	5.3
2	7.7	1.3	0.3	2.5	0	0
3	0	1.8	2.7	2.5	0	5.3
4	7.7	3.6	3.5	1.9	9.1	0
5	0	6.3	6.0	2.5	0	5.3
6	0	7.6	8.8	6.2	0	5.3
7	7.7	12.6	11.2	10.5	18.2	10.5
8	0	9.4	11.5	13.0	18.2	10.5
9	23.1	12.6	10.7	11.1	18.2	21.1
10	7.7	12.6	13.2	9.3	9.1	15.8
11	15.4	12.6	11.2	14.2	9.1	15.8
12	0	8.1	10.0	10.5	0	0
13	15.4	7.2	6.2	7.4	18.2	0
14	0	3.1	3.5	7.4	0	0
不 記	0	0	0	0	0	5.3

0 : 4, 1では31 : 17, 2では31 : 30, 3では8 : 20, 4では30 : 29である。施設数0と3では逆の関係を示すかにみえるが, そこに必然性があるとは考え難く, ここで一定の傾向を指摘することはできない。

(5) 家庭で使った道具数との関係 表138により, 上でみた関係を点検してみると道具数0~2

表139, 学校で使った道具数と仕事を言いつかった時の態度との関係

	嫌いで しない	不足を 言っている	仕方なく する	気持ちよく する	多解答	不記
0	7.7	0.4	0.2	0.6	0	0
1	15.4	1.3	2.0	2.5	0	15.8
2	0	10.8	10.7	10.5	9.1	10.5
3	23.1	14.3	14.5	12.3	27.3	15.8
4	23.1	14.8	12.2	8.6	0	10.5
5	0	9.0	12.0	8.0	0	5.3
6	15.4	6.7	9.0	7.4	0	10.5
7	7.7	7.2	8.0	10.5	27.3	5.3
8	7.7	8.1	7.0	6.8	9.1	5.3
9	0	7.6	5.8	6.2	0	5.3
10	0	8.5	7.0	11.1	9.1	5.3
11	0	5.8	5.0	6.8	9.1	5.3
12	0	3.6	5.2	7.4	9.1	0
13	0	1.3	0.7	0.6	0	0
14	0	0	0.3	0	0	0
不記	0	0.4	0.3	0.6	0	5.3

表140, 父親の仕事振りを見る程度と仕事を言いつかった時の態度との関係

	よく 見る	時々 見る	全く 見ない	不記
嫌いでしない	7.7	61.5	30.8	0
不足を 言っている	25.1	50.7	21.1	3.1
仕方なくする	22.2	52.8	21.4	3.7
気持ちよくする	29.0	45.7	22.8	2.5
多解答	27.3	54.5	9.1	9.1
不記	5.3	21.1	21.1	52.6
平均	23.5	50.7	21.5	4.3

表141, 父母と一緒に仕事した程度と仕事を言いつかった時の態度との関係

	よく ある	時々 ある	全く ない	不記
嫌いでしない	0	61.5	38.5	0
不足を 言っている	19.3	60.5	19.7	0.4
仕方なくする	18.5	61.5	19.0	1.0
気持ちよくする	29.6	53.1	17.3	0
多解答	36.4	54.5	9.1	0
不記	5.3	31.6	10.5	52.6
平均	20.1	59.3	18.9	1.7

表142, 学校掃除の態度と仕事を言いつかった時の態度との関係

掃除 仕事	進んで する	仕方なく する	時々 さぼる	嫌いで しない	多解答	不記
嫌いでしない	7.7	30.8	38.5	23.1	0	0
不足を 言っている	16.1	37.7	43.9	2.2	0	0
仕方なくする	20.0	46.8	31.0	2.0	0	0.2
気持ちよくする	41.4	36.4	21.0	1.2	0	0
多解答	18.2	27.3	27.3	9.1	18.2	0
不記	10.5	15.8	15.8	0	0	57.9
平均	22.2	42.2	32.0	2.2	0.2	1.2

種は望ましくなく、5～9種は望ましい反応を示しているかに見えるが、3, 4種, 10種以上の不規則な反応を加えて考えると、この結果を統一的に理解することは難しい。

(6) 学校で使った道具数との関係 表139により、上でみた関係を点検してみると、道具数9～12に望ましい反応を示しているようであるが、(5)の場合より更に激しい不規則な結果であって、全体を統一する結論を導くことはできない。

(7) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表140によると、仕事を言いつかって、嫌いでしない者では、父親の仕事振りをよく見る者は8%と少ないが、全く見ない者は31%と多い。また気持ちよくする者では、よく見る者は29%と多く、全く見ない者23%と少ない。従って、仕事を言いつかって望ましい態度を示す者は父親の仕事振りをよく見ており、父親の仕事振りを見る程度と仕事を言いつかった時の反応の間には関係があるとみられる。

(8) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表141によると、仕事を言いつかって嫌いでしない者では一緒に仕事したことのある者は皆無であり、全くしない者は39%と多い。また、気持ちよくす

る者ではよく見る者は30%で、全くない者は17%と少ない。即ち、ここでも、父母と一緒に仕事した程度が仕事を言いつかった時の反応に有効に作用していることが示されている。

(9) 学校掃除の態度との関係 表142によると、仕事を言いつかって嫌いではない者は、学校掃除を進んでする者が8%であり、嫌いではない者は23%と多い。また、仕事を言いつかって気持ちよくする者は、学校掃除を進んでする者が41%であり、嫌いではない者は1%と少ない。従って、仕事を言いつかった時の反応と学校掃除の態度との間には深い相似が認められる。

(10) 勉強部屋の掃除との関係 表143によると、仕事を言いつかって、嫌いではない者では、勉強部屋を毎日自分でする者は15%であるが、家人による者は23%と多い。また、仕事を言いつかって気持ちよくする者では、毎日自分でする者24%と多いが、家人によったり、全くしない者はそれぞれ3%と極めて少ない。従って、仕事を言いつかった時の反応と勉強部屋の掃除の仕振りとの間には高い関係があるとみられる。

(11) 家での仕事との関係 表144によると、仕事を言いつかって、嫌いではない者では、家での仕事の決っていない者は85%と多いが、決っている者は15%と少ない。また、仕事を言いつかって気持ちよくする者で決っていない者は60%と前出の85%より少ないが決っている者は前出の15%より40%と多い。従って、ここでも両者の間には関係があると考えられる。

(12) 対勉強仕事観との関係 表145によると、仕事を言いつかって、嫌いではない者では、勉強が大切とする者39%、仕事が大切とする者23%でその差は16%、また気持ちよくする者では勉強が大切とする者16%、仕事が大切とする者14%でその差は2%である。即ち、仕事を言いつかってもしない者は、仕事を言いつかってする者より勉強が大切とする者が多いことになるが、それは、勉

表143, 勉強部屋の掃除と仕事を言いつかった時の態度との関係

	毎日自分で	たまに自分で	家人の手伝いで	家人により	全くしない	多解答	不記
嫌いではない	15.4	46.2	15.4	23.1	0	0	0
不足を言っていない	15.2	61.4	16.1	4.9	1.8	0.4	0
仕方なくする	14.7	64.2	14.7	4.7	1.7	0	0.2
気持ちよくする	24.1	54.9	14.8	3.1	3.1	0	0
多解答	18.2	18.2	9.1	18.2	27.3	0	9.1
不記	5.3	10.5	15.8	5.3	0	0	63.2
平均	16.1	60.4	15.0	4.9	2.1	0.1	1.4

表144, 家での仕事と仕事を言いつかった時の態度との関係

	決っていない	決っている	不記	不明
嫌いではない	84.6	15.4	0	0
不足を言っていない	67.3	31.8	0.9	0
仕方なくする	66.2	33.8	0	0
気持ちよくする	59.9	39.5	0	0.6
多解答	54.5	45.5	0	0
不記	21.1	36.8	42.1	0
平均	64.7	34.2	1.0	0.1

表145, 対勉強仕事観と仕事を言いつかった時の態度との関係

	勉強が大切	仕事大切	同等	不記
嫌いではない	38.5	23.1	38.5	0
不足を言っていない	20.6	12.6	66.4	0.4
仕方なくする	17.8	11.5	70.7	0
気持ちよくする	16.0	13.6	69.8	0.6
多解答	9.1	18.2	72.7	0
不記	0	5.3	21.1	73.7
平均	18.0	12.2	68.3	1.6

表146, 仕事価値観と仕事を言いつかった時の態度との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
嫌いではない	76.9	15.4	7.7	0
不足を言っていない	84.8	14.3	0.4	0.4
仕方なくする	86.0	13.2	0.7	0.2
気持ちよくする	93.2	3.7	1.9	1.2
多解答	81.8	0	0	18.2
不記	21.1	5.3	0	73.7
平均	85.5	11.7	0.9	1.9

表147, いじめと仕事を言いつかった時の態度との関係

	いじめた	いじめられた	そんなことなし	両方あり	不記	多解答
嫌いではない	15.4	7.7	76.9	0	0	0
不足を言っている	17.9	6.7	62.3	12.6	0.4	0
仕方なくする	17.0	8.0	65.7	7.8	1.2	0.3
気持ちよくする	11.1	10.5	66.0	11.1	0.6	0.6
多解答	18.2	18.2	45.5	9.1	0	9.1
不記	5.3	0	21.1	5.3	68.4	0
平均	16.1	8.1	64.1	9.2	2.1	0.4

強と仕事を同等とする者が前者で39%，後者で70%であることによっても明らかである。従って、仕事を言いつかって、嫌いではない者は勉強に価値を置く者が多く、気持ちよくする者には、仕事に価値を置く者が多い。

(13) 仕事価値観との関係 表146によると、仕事を言いつかって、嫌いではないものでは、仕事は良いことだと思う者77%，大したことなしが15%，無駄なことだが8%である。また、気持ちよくする者では、良いことだとする者93%，否定的なものがそれぞれ4%，2%である。従って中学生は仕事自体には価値を認めているとみられるが、気持ちよくする集団にはその割合が高い。

(14) いじめとの関係 表147によると、仕事を言いつかって、嫌いではない者では、いじめた者15%，いじめられた者8%と、気持ちよくする者では両方とも11%である。従って、嫌いではない者の方がいじめが多いとみられる。

3-13 対勉強仕事観と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表148によると、父親の職業が農業の場合は勉強が大切とする者12%に対し、仕事が大切とする者は9%であり、父親が勤め人である場合も勉強が大切とする者は51%であって、父親の職業が農業と勤め人の場合は何れも仕事より勉強に高い評価を与えている。一方、父親の職業が商業の場合は勉強が大切とする者11%に対し、仕事が大切とする者18%で勉強よりもむしろ仕事の方に高い評価を与えているとみられる。

(2) 母親の職業との関係 表149によると、母親が農業の場合、勉強が大切とする者15%に対し、仕事が大切とする者は7%であり、母親が商業の場合も勉強が大切とする者20%に対し、仕事が大切とする者は17%で、母親の職業が農業と商業の場合は仕事よりも勉強を高く評価する傾向がある。母親の職業が勤め人の場合は勉強が大切とする者42%に対し、仕事が大切とする者48%で、勉強よりはむしろ仕事の方を高く評価しているようである。

表148, 父親の職業と対勉強仕事観との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不記
勉強が大切	11.9	55.7	11.4	17.3	3.8
仕事が大切	8.8	51.2	17.6	18.4	4.0
同 等	11.1	57.0	11.0	17.4	3.6
不 記	6.3	37.5	6.3	6.3	43.8
平 均	10.9	55.7	11.8	17.3	4.3

表149, 母親の職業と対勉強仕事観との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不記
勉強が大切	14.6	41.6	19.5	22.2	2.2
仕事が大切	7.2	48.0	16.8	23.2	4.8
同 等	11.1	42.0	20.5	24.9	1.4
不 記	0	25.0	6.3	18.8	50.0
平 均	11.1	42.4	19.6	24.1	2.7

このようにして、農家の子は父母の何れを問わず、仕事よりは勉強が大切と思い、勤め人の子は父が勤めであれば勉強、母が勤めていると仕事を大切に思い、商家の子は父が商売していると仕事を、母の場合には勉強を大切にするという傾向があった。ここには勤労価値観のほかにその背後に将来の進路をどうするかという意識がひそんでいると思われる。

(3) 自宅周辺の環境との関係 表150によると、環境が町的である場合、勉強が大切とする者36%に対し、仕事が大切とする者は29%であり、環境が農村的な場合も勉強が大切とする者42%に対し、仕事が大切とする者は37%で、町的または農村的な環境では仕事よりも勉強を高く評価する傾向がある。近郊的な環境の場合は勉強が大切とする者20%に対し、仕事が大切とする者は31%で、勉強よりはむしろ仕事の方を高く評価しているようである。

(4) 家庭にある栽培施設数との関係 表151によると、栽培施設が2つ以上ある場合、勉強が大切とする者が、仕事が大切とする者より2%程度多いが、栽培施設が1つの場合は勉強が大切とする者18%に対し、仕事が大切とする者は23%で勉強よりも仕事の方が高率になっており、施設数0の場合も併せてみて、これらを統一的に理解することはできない。

(5) 家庭で使った道具数との関係 表152によると、家庭で使う道具数が5~10種の場合は勉強が大切とする者と仕事が大切とする者の割合は相前後し、一定の関係は認められない。しかし、道具数が2~4個の場合は勉強の方が大切とする者が2%程多く、道具数が11~14個の場合は逆に仕事の方が大切とする者が2%多くなっている。

表150, 自宅周辺の環境と対勉強仕事観との関係

	町 的	農 村 的	近 郊 的	不 記
勉強が大切	35.7	42.2	20.5	1.6
仕事が大切	28.8	36.8	31.2	3.2
同 等	31.2	45.2	21.2	2.4
不 記	18.8	6.3	12.5	62.5
平 均	31.5	43.0	22.2	3.3

表151, 家庭にある栽培施設数と対勉強仕事観との関係

	0	1	2	3	4	不 記
勉強が大切	3.8	17.8	28.6	19.5	30.3	0
仕事が大切	3.2	23.2	26.4	18.4	28.8	0
同 等	3.4	16.8	29.9	20.4	29.3	0.1
不 記	6.3	12.5	12.5	0	18.8	50.0
平 均	3.5	17.7	29.0	19.6	29.3	0.9

表152, 家庭で使った道具数と対勉強仕事観との関係

	勉強が 大 切	仕事 が 大 切	同 等	不 記
0	1.1	1.6	0.4	0
1	1.1	1.6	0.6	6.3
2	1.6	0	1.0	0
3	3.8	0.8	2.3	6.3
4	2.7	1.6	3.8	0
5	4.3	6.4	5.4	6.3
6	6.5	2.4	9.3	6.3
7	9.7	14.4	11.4	6.3
8	11.9	6.4	12.0	6.3
9	12.4	14.4	10.7	18.8
10	14.6	12.8	11.5	18.8
11	9.7	12.0	12.7	12.5
12	9.2	11.2	9.1	0
13	8.1	9.6	6.0	0
14	3.2	4.8	3.8	6.3
不 記	0	0	0	6.3

表153, 学校で使った道具数と対勉強仕事観との関係

	勉強が 大 切	仕事 が 大 切	同 等	不 記
0	1.1	0	0.3	0
1	0.5	1.6	2.6	18.8
2	13.5	7.2	10.4	6.3
3	14.6	16.0	14.0	18.8
4	13.5	12.8	11.7	12.5
5	11.9	8.8	10.3	6.3
6	7.0	10.4	8.3	6.3
7	8.6	6.4	8.7	6.3
8	7.0	7.2	7.3	6.3
9	6.5	7.2	6.0	0
10	8.6	6.4	8.1	0
11	4.9	7.2	5.3	6.3
12	0.5	6.4	6.1	0
13	1.1	0.8	0.6	6.3
14	0	0.8	0.1	0
不 記	0.5	0.8	0.3	6.3

(6) 学校で使った道具数との関係 表153によると、学校で使う道具数に対する勉強が大切とする者と仕事が大切とする者の割合は相前後し、一定の傾向は認められない。

(7) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表154によると、父親の仕事振りを全く見ない場合、勉強が大切とする者27%に対し、仕事が大切とする者は16%で、勉強より仕事を低く評価する傾向がある。これに反し、仕事振りをよく見る場合は勉強が大切とする者25%に対し、仕事が大切とする者は32%であり、仕事振りを時々見る者も勉強が大切とする者44%に対し、仕事が大切とする者は49%で、父親の仕事振りを時々あるいはよく見る者は勉強よりも仕事を高く評価しているようである。

(8) 父母と一緒に仕事をした程度との関係 表155によると、父母と一緒に仕事を時々する場合、勉強が大切とする者62%に対し、仕事が大切とする者は50%で仕事よりも勉強を高く評価している。父母とよく仕事をする場合は勉強が大切とする者20%に対し、仕事が大切とする者は27%であって、仕事の経験が価値観に影響していると考えられる。しかし、父母と全く仕事をしない場合も勉強が大切とする者18%に対し、仕事が大切とする者21%で勉強よりも仕事を高く評価していることになっているが、その説明は困難である。

(9) 学校掃除の態度との関係 表156により、学校掃除を進んでする場合、勉強が大切とする者は20%、仕事が大切とする者は14%であり、仕方なくする場合も勉強が大切とする者48%に対し、仕事が大切とする者は40%で、学校掃除を進んでまたは仕方なくする場合は仕事よりも勉強を高く評価している結果になっている。学校掃除を時々さぼる場合は勉強が大切とする者30%に対し、仕事が大切とする者は34%であり、また学校掃除が嫌いではない場合も勉強が大切とする者2%に対し、仕事が大切とする者は12%で、学校掃除をさぼったり、嫌いではない場合は勉強よりも仕事を高く評価している結果になっている。これらの数値を統一的に理解することは困難であるが、ここで勉強が大切であるとしながら学校掃除をよくしている者は学校掃除も勉強の一部と考えたり、生活態度を自然な形で表わしているためかも知れない。また、学校掃除を怠けている者が、却って仕

表154, 父親の仕事振りを見る程度と
対勉強仕事観との関係

	よく 見る	時々 見る	全く みない	不記
勉強が大切	24.9	43.8	27.0	4.3
仕事が大切	32.0	48.8	16.0	3.2
同等	22.1	53.8	21.0	3.1
不記	0	12.5	25.0	62.5
平均	23.5	50.7	21.5	4.3

表156, 学校掃除の態度と対勉強仕事観との関係

	進んで する	仕方 なくする	時々 さぼる	嫌い でない	多解答	不記
勉強が大切	20.0	48.1	29.2	2.2	0	0.5
仕事が大切	13.6	40.0	33.6	12.0	0.8	0
同等	24.6	42.0	32.6	0.6	0.1	0
不記	6.3	0	25.0	0	0	68.8
平均	22.2	42.2	32.0	2.2	0.2	1.2

表155, 父母と一緒に仕事した程度と
対勉強仕事観との関係

	よく ある	時々 ある	全く ない	不記
勉強が大切	19.5	62.2	18.4	0
仕事が大切	27.2	50.4	20.8	1.6
同等	19.4	61.4	18.5	0.7
不記	6.3	6.3	25.0	62.5
平均	20.1	59.3	18.9	1.7

表157, 勉強部屋の掃除と対勉強仕事観との関係

	毎日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に より	全く しない	多解答	不記
勉強が大切	17.3	61.1	13.5	3.2	4.9	0	0
仕事が大切	10.4	61.6	11.2	12.0	4.8	0	0
同等	17.1	61.0	16.4	4.1	1.0	0.1	0.3
不記	6.3	18.8	0	0	0	0	75.0
平均	16.1	60.4	15.0	4.9	2.1	0.1	1.4

事を大切とする者が多いのは、知識を行動化し得ない者の存在や、勉強嫌いと重複し、勉強嫌いの反動としてそのように言っている者があること、即ち生活態度に問題のある者の存在をうかがわせるものがある。

(10) 勉強部屋の掃除との関係 表157によると、勉強部屋の掃除を毎日自分でする場合、勉強が大切とする者17%に対し、仕事が大切とする者は10%であり、家人の手伝いである場合も勉強が大切とする者14%に対し、仕事が大切とする者は11%で、勉強部屋を自分であるいは家人の手伝いにより掃除する場合は仕事よりも勉強を高く評価する傾向がみられる。これは、勉強部屋の掃除は中学生にとって勤労というより、勉強の一種であると考えられ、親の考えも中学生を勉強に向けようとしていると受取ってよいことを示している。これに対し、家人により掃除をしてもらう場合、勉強が大切とする者3%に対し、仕事が大切とする者は12%で家人に勉強部屋を掃除してもらう場合は勉強よりも仕事を高く評価するようであるが、これは、心理的に勉強よりは仕事に逃げていると考えられる。

(11) 家での仕事との関係、表158によると、家での仕事が決っていない場合、勉強が大切とする者の割合と、仕事が大切とする者の割合の差は1.2%で差はなく、家での仕事が決っている場合も勉強が大切とする者と仕事が大切とする者の割合も差があるとはいえない。従って、家での仕事が決っているか、いないかは、中学生の対勉強仕事観には影響ないといえるであろう。

(12) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表159によると、仕事を言いつかった時、仕方なくする場合、勉強が大切とする者58%に対し、仕事が大切とする者は55%であり、不足を言っている場合も勉強が大切とする者25%に対し、仕事が大切とする者は22%であり、仕事を言いつかった時に仕方なく、不足を言うような態度を示す場合は仕事よりも勉強を高く評価する傾向がある。仕事を言いつかった時、気持ちよくする場合は勉強が大切とする者14%に対し、仕事が大切とする者は18%で、勉強よりも仕事を高く評価するようである。従って、仕事を言いつかった時の態度は中学生の仕事観を表わすものと考えられる。

(13) 仕事価値観との関係 表160で指摘できることは勉強が大切とする者の79%、仕事が大切と

表158, 家での仕事と対勉強仕事観との関係

	決っていない	決っている	不記	不明
勉強が大切	67.6	32.4	0	0
仕事が大切	66.4	33.6	0	0
同等	64.4	35.2	0.3	0.1
不記	31.3	18.8	50.0	0
平均	64.7	34.2	1.0	0.1

表159, 仕事を言いつかった時の態度と勉強仕事観との関係

	嫌いでしない	不足を言っている	仕方なくする	気持ちよくする	多解答	不記
勉強が大切	2.7	24.9	57.8	14.1	0.5	0
仕事が大切	2.4	22.4	55.2	17.6	1.6	0.8
同等	0.7	21.1	60.4	16.1	1.1	0.6
不記	0	6.3	0	6.3	0	87.5
平均	1.3	21.7	58.4	15.8	1.1	1.8

表160, 仕事価値観と対勉強仕事観との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
勉強が大切	78.9	18.4	1.6	1.1
仕事が大切	81.6	16.8	1.6	0
同等	89.9	9.1	0.6	0.4
不記	0	6.3	0	93.8
平均	85.5	11.7	0.9	1.9

する者の82%がそれぞれ仕事はよいことだとしていることである。即ち、勉強が大切であるとする者も仕事に価値を認めているが、それでも、仕事が大切とする者の方が仕事は良いことだとする者の割合が高いことを示している。

3-14 仕事価値観と他要因との関係

(1) 父親の職業との関係 表161により、縦の数値を平均との差においてみると、父親が農業の中学生は、仕事は無駄なことだとする者が多く、勤め人の子はそれが少ない。また自家商業の子は大したことなしが比較的多い。これによってみると、中学生の仕事価値観は父親の職業の経済性によって左右される面があるように思われる。

(2) 母親の職業との関係 同様な方法で表162の数値をみると、母親が農業の場合は、仕事が無駄なことだとする者が多く、大したことなしとする者が少ない。勤め人の場合は大したことなしが少し多いが、無駄なことだとする者は皆無である。自家商業の場合は、大したことなしがやや少ないが、無駄なことだが多い。即ち、ここでも、母親の経済性が中学生の仕事価値観に影響を及ぼしているようにみられるが、父親と母親では幾らかの影響の仕方に違いがあるように思われる。即ち、母親が農業である場合には、父親の場合より、大したことなしが少なくなり、勤め人の場合には無駄なことだとする者が皆無になっている反面、自家商業の場合には無駄なことだとする者が逆に増えている。農家や勤め人の場合には、母親に対する気がねが働き、自家商業の場合にはそれが働いていないように思われる。

(3) 自宅周辺との関係 同様に表163を平均値との差においてみると、町的环境にあっては多様な価値観が混在していて、はっきりした傾向は認められないが、農村的環境では無駄なことだとする者が顕著に多く、近郊的環境では、無駄なことだとする者が却って少ない。ここでも環境にみられる経済性が中学生の仕事価値観に影響を及ぼしているといえようと思う。

(4) 家庭にある栽培施設数との関係 同様な方法によって表164の数値をみると、仕事は無駄なことだとする者の少ないのは、施設数が0、2、3の場合であり、多いのは1と4の場合である。

表161, 父親の職業と仕事価値観との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
良いことだ	10.8	56.5	11.5	17.5	3.6
大したことなし	10.8	55.0	14.2	16.7	3.3
無駄なことだ	22.2	44.4	11.1	22.2	0
不 記	10.0	30.0	10.0	10.0	40.0
平 均	10.9	55.7	11.8	17.3	4.3

表162, 母親の職業と仕事価値観との関係

	農 業	勤め人	自家商業	その他	不 記
良いことだ	11.8	42.8	20.0	23.3	2.0
大したことなし	5.8	46.7	16.7	29.2	1.7
無駄なことだ	22.2	0	33.3	44.4	0
不 記	5.0	20.0	15.0	20.0	40.0
平 均	11.1	42.4	19.6	24.1	2.7

表163, 自宅周辺の環境と仕事価値観との関係

	町 的	農村的	近郊的	不 記
良いことだ	31.7	44.0	22.0	2.3
大したことなし	29.2	41.7	25.8	3.3
無駄なことだ	33.3	55.6	11.1	0
不 記	35.0	0	15.0	50.0
平 均	31.5	43.0	22.2	3.3

表164, 家庭にある栽培施設数と仕事価値観との関係

	0	1	2	3	4	不 記
良いことだ	3.6	17.1	29.5	20.4	29.4	0.1
大したことなし	2.5	22.5	28.3	17.5	29.2	0
無駄なことだ	0	33.3	11.1	11.1	44.4	0
不 記	5.0	10.0	20.0	5.0	20.0	40.0
平 均	3.5	17.7	29.0	19.6	29.3	0.9

施設数4の場合は農家の場合であって、これは表161～163と同傾向を示しているといえよう。

(5) 家庭で使った道具数との関係 同様にして表165の数値を検討してみても、一定の傾向を認めることはできない。即ち、家庭における道具の使用数と仕事価値観には関係はないようである。

(6) 学校で使った道具数との関係 同様にして表166の数値を検討してみても、一定の関係を認めることはできない。即ち、学校における道具の使用数と仕事価値観には関係はないようである。

(7) 父親の仕事振りを見る程度との関係 表167によると、父親の仕事振りをよく見る者には、仕事は大したことなしと思う者が平均24%より20%と少なく、無駄なことだと思う者は皆無である。これに対し、時々見る程度の者は大したことなしとする者は平均の51%より47%とやや少ないが、無駄なことだとする者は78%と顕著に多い。また、全く見ない者は大したことなしとする者が平均の22%より28%と多い。従って、父親の仕事振りを見る程度は仕事の価値観の形成に関与していると見なされ、子供は親の後姿を見て育つという諺を保証している。

(8) 父母と一緒に仕事した程度との関係 表168によると、父母と一緒に仕事したことのよくある者で、仕事は大したことなしとする者は平均の20%より、13%と少なく、また無駄なことだとする者は11%と更に減っている。これに対し、時々ある程度の者は無駄なことだとする者が平均の59%

表165, 家庭で使った道具数と仕事価値観との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
0	0.8	0	0	0
1	0.7	0.8	11.1	5.0
2	1.0	0	11.1	0
3	2.4	2.5	0	5.0
4	3.0	5.8	11.1	0
5	5.1	6.7	0	10.0
6	8.2	6.7	0	5.0
7	11.1	14.2	0	10.0
8	11.4	10.8	11.1	5.0
9	11.7	10.0	11.1	15.0
10	12.3	13.3	0	15.0
11	12.1	10.8	11.1	20.0
12	9.9	6.7	0	0
13	6.5	7.5	22.2	5.0
14	3.9	4.2	11.1	0
不記	0	0	0	5.0

表166, 学校で使った道具数と仕事価値観との関係

	良いことだ	大したことなし	無駄なことだ	不記
0	0.2	0.8	11.1	0
1	2.0	2.5	0	15.0
2	10.9	7.6	11.1	10.0
3	14.7	10.9	11.1	25.0
4	10.8	21.0	22.2	15.0
5	10.4	11.8	0	5.0
6	8.0	10.1	11.1	5.0
7	9.0	5.0	0	5.0
8	7.3	6.7	11.1	5.0
9	6.1	7.6	0	0
10	8.6	4.2	0	0
11	5.5	5.0	0	10.0
12	5.2	3.4	22.2	0
13	0.6	2.5	0	0
14	0.1	0.8	0	0
不記	0.5	0	0	5.0

表167, 父親の仕事振りを見る程度と仕事価値観との関係

	よく見る	時々見る	全く見ない	不記
良いことだ	24.5	51.6	20.7	3.2
大したことなし	20.0	46.7	28.3	5.0
無駄なことだ	0	77.8	22.2	0
不記	10.0	25.0	15.0	50.0
平均	23.5	50.7	21.5	4.3

表168, 父母と一緒に仕事した程度と仕事価値観との関係

	よくある	時々ある	全くない	不記
良いことだ	21.4	59.0	18.9	0.7
大したことなし	13.3	68.3	17.5	0.8
無駄なことだ	11.1	44.4	44.4	0
不記	10.0	25.0	15.0	50.0
平均	20.1	59.0	18.9	1.7

%より44%と少ないが、大したことなしとする者は68%と多く、全くない者に至っては仕事は無駄だとする者は、平均の19%よりはるかに多い44%に及んでいる。従って、父母と一緒に仕事することは中学生の仕事価値観を形成する上に役立っていると考えられる。

(9) 学校掃除の態度との関係 表169によると、学校掃除を進んでする者では、仕事は良いことだとする者は平均の22%より24%と多い反面、大したことなしとする者は10%と少ない。また仕方なくする者は、無駄なことだとする者が平均の42%より少なく22%であるが、大したことなしとする者は51%と多い。時々さぼる者は平均の32%に対し、大したことなしとする者36%、無駄なことだとする者44%で、ともに多い。嫌いで掃除しない者も、仕事は無駄だとする者は平均の2%に対し、11%と多い。従って、学校掃除に対する態度は中学生の仕事価値観に深くかかわっていると考えられる。しかし、進んでする者の中にも、仕事は大したことなし、無駄なことだと思っている者がある反面、時々さぼったり、嫌いでしない者の中にも、仕事は良いことだと思っている者がある。即ち、価値観と行動が必ずしも一致していないことを示している。価値観と行動の一致は孔子でも言っているように、極めて難しい問題があるが、より良い行動が出来るための方向は示されている。

(10) 勉強部屋の掃除との関係 表170によると、毎日自分で掃除する者の中には、仕事は良いこ

表169, 学校掃除の態度と仕事価値観との関係

	進んで する	仕方な くする	時々 さぼる	嫌いで しない	多解答	不 記
良いことだ	24.1	42.1	31.4	2.0	0.2	0.1
大した ことなし	10.0	50.8	35.8	3.3	0	0
無駄なことだ	22.2	22.2	44.4	11.1	0	0
不 記	10.0	5.0	30.0	0	0	55.0
平 均	22.2	42.2	32.0	2.2	0.2	1.2

表170, 勉強部屋の掃除と仕事価値観との関係

	毎 日 自分で	たまに 自分で	家人の 手伝で	家人に より	全 く しない	多解答	不 記
良いことだ	17.2	60.6	15.5	4.7	1.7	0.1	0.2
大した ことなし	11.7	65.8	11.7	7.5	3.3	0	0
無駄なことだ	0	55.6	22.2	0	22.2	0	0
不 記	5.0	20.0	10.0	0	5.0	0	60.0
平 均	16.1	60.4	15.0	4.9	2.1	0.1	1.4

表171, 家での仕事と仕事価値観との関係

	決って いない	決って いる	不 記	不 明
良いことだ	65.1	34.6	0.2	0.1
大した ことなし	66.7	33.3	0	0
無駄なことだ	66.7	33.3	0	0
不 記	35.0	25.0	40.0	0
平 均	64.7	34.2	1.0	0.1

表172, 仕事を言いつかつた時の態度と仕事価値観との関係

	嫌いで しない	不足を 言つて する	仕方なく する	気持よく する	多解答	不 記
良いことだ	1.1	21.5	58.7	17.2	1.0	0.5
大した ことなし	1.7	26.7	65.8	5.0	0	0.8
無駄なことだ	11.1	11.1	44.4	33.3	0	0
不 記	0	5.0	5.0	10.0	10.0	70.0
平 均	1.3	21.7	58.4	15.8	1.1	1.8

とだとする者が多く、無駄なことだとする者は皆無であり、家人に手伝ってもらう者や全く掃除しない者の中には、仕事は良いことだとする者が少なく、無駄なことだとする者が多い。即ち、表169で見たように、仕事に対する価値観が行動に表われている場合が認められる。しかし、仕事は良いことだと思っていなくても、たまに自分でする者が最も多く、家人によったり全くしない者が合わせて6%もいる。理念が行動化されない場合のあることを示している。

(11) 家での仕事との関係 表171によると、家での仕事が決っていても決っていなくても、仕事に対する価値観の割合はほぼ同じで、家での決った仕事の有無は仕事価値観に差を生み出していないとみられる。

(12) 仕事を言いつかった時の態度との関係 表172によると、仕事を言いつかって嫌いでしない者に仕事は無駄なことだと思ふ者が平均の1%より11%と多いのは当然であるが、不足を言ったり、仕方なくする者の中には、仕事を無駄なことだと思ふ者が平均の22%、58%より少ない11%や44%を示す反面、気持ちよくする者の中には仕事は無駄なことだと思っている者が平均の16%の倍位多いことから、仕事を言いつかった時の態度と仕事価値観とは必ずしも相応の関係をもつとは言えないようである。即ち、仕事を言いつかった時の態度は仕事価値観の外に、仕事を言いつけた人との人間関係、その生徒の服従の精神といった性向等によるものと考えられる。

(13) 対勉強仕事観との関係 表173によると、勉強が大切とする者は、仕事は良いことだとする者は平均の18%より1%少ないのに対し、大したことなしは10%、無駄なことだは15%少ない。これに対し、仕事が大切とする者は、良いことだとする者は平均の12%と差はなく、大したことなしは5%、無駄なことだは10%少なく、仕事が大切だとする者の方が、仕事価値観も高いことを示している。しかし、仕事が大切とする者の中にも仕事の価値について否定的な反応を示している者もあることから、中学生の仕事価値観は決定的なものでなく、未だ相対的なものであることを示している。

(14) いじめとの関係 表174により、いじめ型といじめられ型についてみると、いじめ型は仕事は大したことなしとする者及び仕事は無駄なことだとする者は共に平均の16%より6%多いのに対し、いじめられ型は、仕事は無駄なことだとする者は皆無であるのみならず、仕事は大したことなしとする者は平均の10%より2%多いに過ぎない。従って、いじめ型はいじめられ型に比べて、仕事価値観は低いとみられ、山口幸男の指摘が実証されていることになる³⁾。しかし、このことは3-1-1(14)で指摘した仕事を大切とする者はいじめが多いということに反する。従って、いじめ型は、正しい勤労性を持った者と持たない者が混在しているとみられる。

表173, 対勉強仕事観と仕事価値観との関係

	勉強が大切	仕事が大 切	同 等	不 記
良いことだ	16.6	11.6	71.8	0
大 した ことなし	28.3	17.5	53.3	0.8
無駄なことだ	33.3	22.2	44.4	0
不 記	10.0	0	15.0	75.0
平 均	18.0	12.2	68.3	1.6

表174, いじめと仕事価値観との関係

	いじめた	いじめられた	そん な ことなし	両方あり	不 記	多 解 答
良いことだ	15.5	8.0	66.1	9.6	0.8	0.1
大 した ことなし	21.7	10.0	57.5	8.3	0.8	1.7
無駄なことだ	22.2	0	66.7	11.1	0	0
不 記	5.0	5.0	15.0	0	70.0	5.0
平 均	16.1	8.1	64.1	9.2	2.1	0.4

4 おわりに

ここにおいて、関係ありと認められる要因間の関係を集約し、勤労性を規定する条件と勤労性形成の過程を考察すべきであるが、紙数と時間の関係でここまでとし、後日の作業に廻したいと思う。

謝辞、本調査を行うに当って御尽力頂いた岡俊夫、治郎丸勇、渡辺三良各校長、データの整理に御協力を頂いた美作女子本学学生の竹元伸子、安田理恵、松村よしみ各嬢、並びにデータのコンピューター処理に御尽力頂いた本学部大塚讓先生の各位に対し、深甚の謝意を表す次第である。

引用文献

- 1) 毛利亮太郎他 4 氏：小学生の勤労性に関する実態調査，日本農業教育学会誌第19巻1号，p.231，昭62
- 2) 毛利亮太郎他 4 氏：中・高校生の勤労性に関する実態調査，美作女子大学・美作女子大学短期大学紀要，第33号，p24，昭63
- 3) 山口幸雄：非行少年，pp.7～8，国土社，1966

(昭和63年8月31日受理)

別紙 (アンケート用紙)

_____小・中・高等学校 第__学年 男子 女子

*下のしつもんで、それぞれあてはまる番号に○をつけてください!

- 1) お父さんのしごと…… 1. のうぎょう 2. サラリーマン 3. 家でしょうばい 4. そのほか ()
- 2) お母さんのしごと…… 1. のうぎょう 2. サラリーマン 3. 家事 4. そのほか ()
- 3) あなたの家のまわりは…… 1. 町のじゅうたくがい 2. 町のしょうてんがい
3. のうそん 4. 町だが田畑がある ()
- 4) あなたの家に次のものがありますか?…… 1. 畑 2. 水田 3. 花だん 4. うえきばち ()
- 5) 家で使ったことがある道具や田畑などの番号に○印をつけてください。
1. かま 2. くわ 3. スコップ 4. ほうき 5. いしよくごて 6. 草かき 7. ぞうきん
8. かなづち 9. うえきばち 10. 畑 11. 水田 12. 花だん 13. じょろ 14. 耕運機 ()
- 6) 学校で使ったことがある道具や田畑などの番号に○印をつけてください。
1. かま 2. くわ 3. スコップ 4. ほうき 5. いしよくごて 6. 草かき 7. ぞうきん
8. かなづち 9. うえきばち 10. 畑 11. 水田 12. 花だん 13. じょろ 14. 耕運機 ()
- 7) お父さんのしごとぶりを見たことがありますか?
1. よく見る 2. ときどき見る 3. いちども見たことがない ()
- 8) お父さんか、お母さんといっしょに、しごとをしたことがありますか?
1. よくある 2. ときどきある 3. いちどもしたことがない ()
- 9) 学校のそうじ当番のときのようすは、つぎのどれですか?
1. すすんでする 2. しかたがないからする 3. ときどきさぼる 4. きらいなのでしない ()
- 10) 家で勉強するところを、自分でそうじしますか?
1. まいにち自分でする 2. たまに自分でする 3. ときどき家の人にてつだってもらう
4. ほとんど家の人にやってもらう 5. まったくしない ()
- 11) 家では、あなたのするしごとが、きまっていますか?それは何ですか?
1. きまっていない 2. きまっている () ()
- 12) 親からしごとを、いつかついた時、あなたはどうしますか?
1. きらいだからしない 2. ぶつぶついつてする 3. しかたなくする 4. きもちよくする ()
- 13) 勉強としごとのどちらが、たいせつだと思いますか?
1. 勉強のほう 2. しごとのほう 3. 同じくらいたいせつ 4. しごとはむだです ()
- 14) あなたは「しごと」をどう思いますか?
1. 良いことです 2. たいしたことはないです 3. むだなことです ()
- 15) あなたは、次のどれですか?
1. いじめたことがある 2. いじめられたことがある 3. そんなことはない ()

